

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山口県萩市 

自治体名：山口県萩市

担当課名：萩市教育委員会 学校教育課 部活動改革推進室

電話番号：(0838) -25-3176

1.自治体の基本情報

基本情報

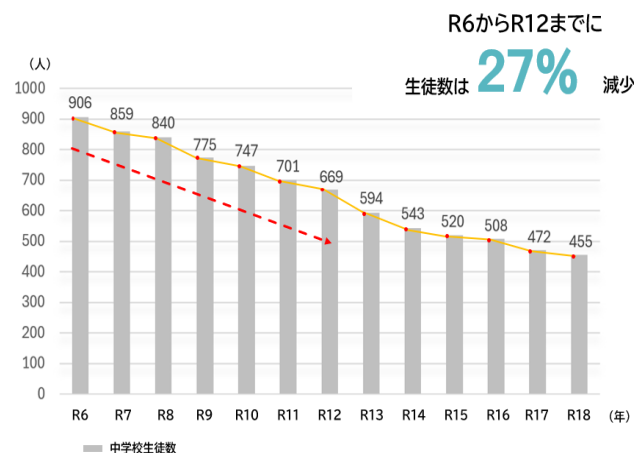
面積	698.9 km ²
人口	41,637人 ※令和6年12月末日
公立中学校数	13 校
公立中学校生徒数	845人 ※令和6年12月末日
部活動数	13部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済 (萩市部活動改革推進会議)
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	萩市における中学校部活動の地域移行にかかる改革スケジュールを策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

・本市には、スポーツ関連団体として、主に、萩市体育協会（加盟団体 33 団体）、萩市スポーツ少年団（登録団体 32 団体）、総合型スポーツクラブ（登録クラブ 2 団体）が存在するが、指導者の高齢化やスポーツを担う人材の減少などの問題を抱えている。（団体は令和 4 年 4 月時点の登録数）

・本市の、教職員に対し地域クラブ移行に際し、兼職兼業を提出し地域クラブの指導者として関わっていただけるか調査を実施したが、83%の教職員が関わるのが難しいと回答し、指導者の確保に苦慮している。

【萩市における中学校生徒数の見込み】



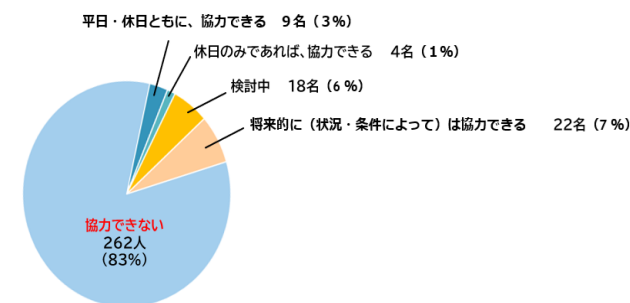
・本市は少子化が著しく、15歳未満の割合は、人口の8.0%（令和5年9月末日現在の住民基本台帳）まで低下している。

・少子化による学級数の減少、部活動においても、団体競技が難しく、地域クラブ活動の受け皿の創出が課題。

・本市は広域であり、島嶼部もあるため、地域クラブの活動場所までの移動手段が確立できていない。

【萩市における中学校生徒数の見込み】

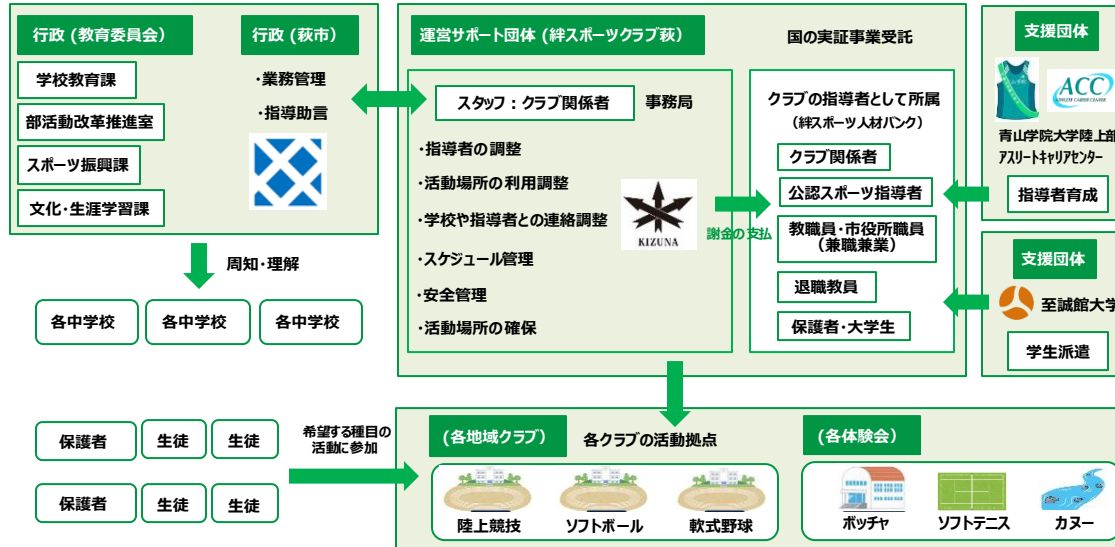
Q.教職員の兼職兼業により地域クラブに関わってもらえるか調査
教職員 340名中 315名が回答



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課、部活動改革推進室、スポーツ振興課、文化・生涯学習課）

- ・学校教育課 各学校、学校運営協議会、保護者等との協議
- ・部活動改革推進室 各種調整、部活動改革会議事務局
- ・スポーツ振興課 萩市体育協会、社会スポーツ団体、スポーツ少年団等のスポーツ団体との協議、調整
- ・文化・生涯学習課 萩市文化協会との協議、調整

◎首長部局 教育委員会への助言

●外部（協力団体）の役割分担

- ・絆スポーツクラブ萩 地域クラブの運営、体験会の開催、指導者研修会
- ・至誠館大学 学生の派遣協力
- ・青山学院大学陸上部/アスリートキャリアセンター 指導者研修会、学生派遣、各種運営サポート

年間の事業スケジュール

令和6年4月	萩市教育委員会内に、「部活動改革推進室」の設置 ソフトボール、軟式野球クラブの設立
令和6年6月	萩市議会6月定例会 一般質問
令和6年7月	第8回 部活動改革推進会議 アドバイザー招聘（スポーツ庁）
令和6年9月	萩市議会9月定例会 一般質問 各種体験会の開始
令和6年10月	地域移行に関するアンケートの実施 （小学校5・6年生、中学校1・2年生） 指導者育成研修会の開催
令和6年11月	地域移行に関するアンケートの実施 （学校教員）
令和6年12月	萩市議会12月定例会 一般質問 保護者説明会の実施
令和7年1月	第9回 部活動改革推進会議
令和7年2月	ICTの実証を実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	13校	実施した地域クラブ総数	3 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 部活
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	4 1 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
絆ランニングクラブ萩	地域クラブ	陸上競技	月 約12回 週 3 回 (月・水・土)	月 17時 水 19時 土 8時30	1年 17名 2年 26名 3年 12名	R5.4月 ～	学校施設 社会体育施設	2 3 人	3 人 (内、兼務 3 人)	月会費 3,000 円 年会費 3,000 円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
ネクサス KIZUNA クラブ	地域クラブ	ソフトボール (新)	月 約8回 週 2 回 (水・土)	水 19時 土 8時30	1年 7名 2年 3名 3年 2名	R6.4月 ～	学校施設 社会体育施設	1 2 人	1 人 (内、兼務 1 人)	月会費 3,000 円 年会費 3,000 円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
萩クラブ	地域クラブ	軟式野球 (新)	月 約12回 週 3 回 (月・金・日)	平 19時 休 9時	1年12名 2年 7名	R6.4月 ～	学校施設	4 人	1 人 (内、兼務 1 人)	月会費 2,000 円 年会費 3,000 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●ソフトテニス教室（計 5 回）

●ボッチャ体験会（計 2 回）

●カヌー体験会（計 2 回）

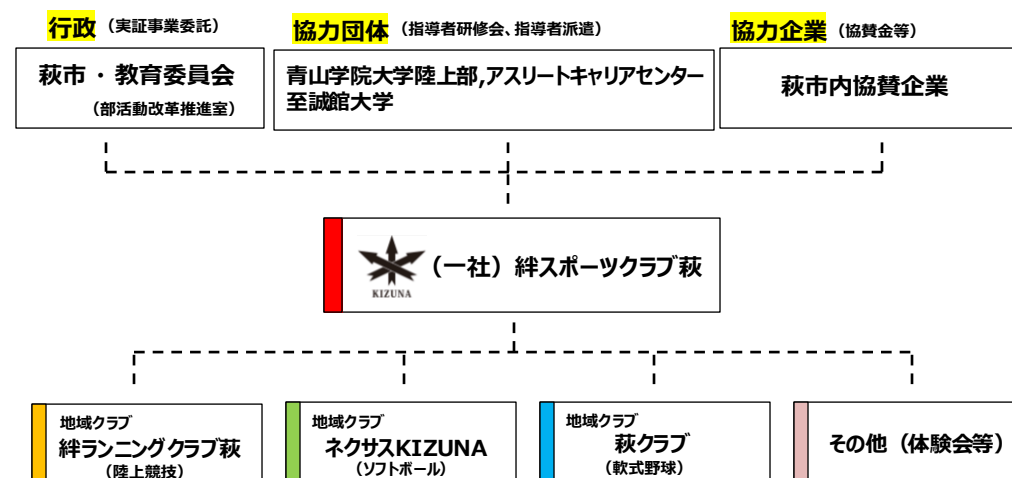
2.実証内容と成果

主な取組例

●絆スポーツクラブ萩 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、ソフトボール、軟式野球
運営団体名	(一社) 絆スポーツクラブ萩
期間と日数	陸上競技：月 約12回 (週3回) (月・水・土) ソフトボール：月 約8回 (週2回) (水・土) 軟式野球：月 約12回 (週3回) (月・金・日)
指導者の主な属性	公認スポーツ指導者、教職員 (兼職兼業) 市役所職員・教員OB・大学生
活動場所	学校施設、社会体育施設
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者による移送
1人あたりの参加会費等 (年額)	陸上競技：40,000円 ソフトボール：40,000円 軟式野球：28,000円 (年会費+月謝+保険料)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図 (地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括（絆スポーツクラブ萩） 10名

役割：各クラブの指導者が理事となり、理事会等により情報共有を行う

●指導者

役割：地域クラブ活動の指導、大会引率等を行う

- ・ 陸上競技 23名
- ・ ソフトボール 12名
- ・ 軟式野球 4名
- ・ その他 2名

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・萩市では、「総括コーディネーター」と「地域クラブコーディネーター」の2名を配置。それぞれの役割を分けて業務を実施した。

・運営支援アプリを開発・導入し、地域クラブの運営に使用。（練習日誌等）

取組の内容

《総括コーディネーター：退職中学校長》

主な業務：学校との連絡調整、各種説明会への参加（校長会、各競技団体、保護者カフェ等）、CS1プロジェクトの調整※

《地域クラブコーディネーター：退職学校教員》

主な業務：地域クラブ（絆スポーツクラブ萩）事務局、謝金計算、施設予約、指導者連絡調整、保険加入手続き 等



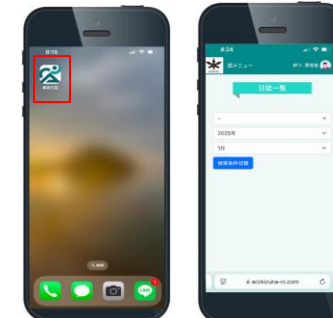
教育委員会に2名配置



各競技団体との打ち合わせ



保護者カフェでの説明



運営支援アプリの導入

総括コーディネーターの具体的な動きの実績

〔学校との連絡調整〕

・定期的に市内（13校）校長を訪問・電話し、取組状況の聞取を実施（毎月1回以上）

〔各種協議や説明会〕

・市内競技団体との協議（11種目）、保護者カフェ参加（3回）、校長会（6回）

〔CS1プロジェクトの立ち上げに向けて〕

・各中学校区（13校）協議、調整を行った。

※各中学校区で地域の「ひと・こと・もの」を生かした生徒の活動の場を創出するもの。
体力づくりやレク活動、地域理解を深める活動、地域貢献活動 等

今後の課題と対応方針

《総括コーディネーター》

- ・部活動に代わる地域クラブの拡充（生徒の活動の場の保証）
- ・部活動改革の周知（小中学校、教職員、児童、生徒）
- ・地域らしさを生かしたCS1プロジェクトの立ち上げ
- ・地域人材、資源の積極的活用（予算の確保）

《地域クラブコーディネーター》

- ・地域クラブ（運営団体・実施主体）をまとめていく組織の設立
- ・地域クラブ活動に参加する子供たちを、将来的に地域クラブ活動を担う人材として育成していくこと（事務局含）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

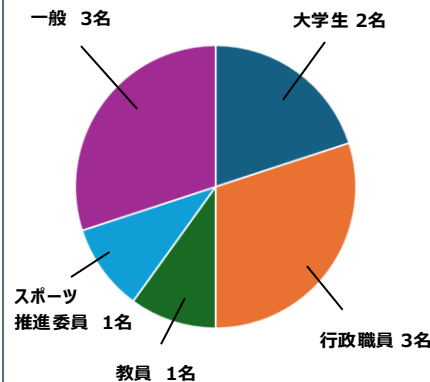
取組事項

「クラブコーチ育成研修会」の開催

「青山学院大学陸上部」と「一般社団法人アスリートキャリアセンター」が共同で開発した「クラブコーチ育成研修会」を令和5年度に引き続き開催した。今年度は、10名が受講し、研修会を受講した指導者が、クラブの指導を行った。令和5年度に受講した参加者を対象に「フォローアップ研修会」を開催し、学び直しの機会を設定した。

※「クラブコーチ育成研修会」とは、箱根駅伝優勝常連校である、青山学院大学陸上部 原晋監督が、指導の中で培った「チームマネジメント手法」と「正しく安全な運動指導」の要素をカリキュラムとしてまとめた研修会。

研修会の様子・参加者属性



クラブコーチ育成研修会の様子

取組の成果・課題

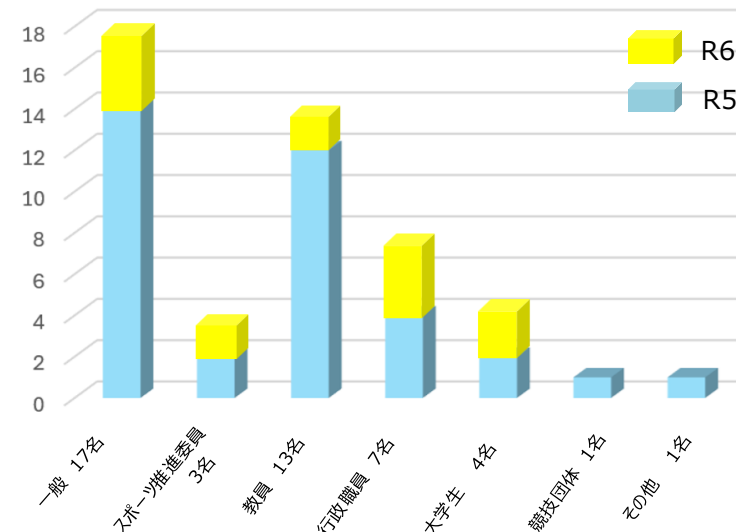
【取組の成果】

「青山学院大学陸上部」と「一般社団法人アスリートキャリアセンター」が共同で開発した「クラブコーチ育成研修会」を令和5年度から開催し、合計46名が受講した。研修会を学んだ指導者が、地域クラブの指導や体験会の指導を行い、安心・安全に指導できる体制整備を行った。

令和5年度は2日間連続の開催であったが、令和6年度においては、オンライン研修（3日間）と現地研修（1日間）に分けて開催することにより、参加者に参加しやすい環境を整えた。

【取組の課題】

「萩市」、「青山学院大学陸上部」、「アスリートキャリアセンター」、「絆スポーツクラブ萩」は連携協定の締結を進めているが、市内に地域クラブの指導者として協力できる人材が少なく、研修会の参加者を募ることに苦慮している。併せて、公認スポーツ指導者資格扱いとはならないため、地域クラブ指導者となるための要件を整えていく必要がある。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容・参加実績

【アスリートキャリアセンターと連携した研修会】

《①フォローアップ研修会》

令和5年度にクラブコーチ育成研修会を受講した方を対象に、フォローアップ研修会を実施。

実施日：令和6年10月26日（土）

時間：13：30～17：20

参加者：16名



《②クラブコーチ育成研修会》

令和6年度、新規受講者を対象に実施。参加者の方が受講しやすいよう、オンラインと現地の日程を分けて実施。

実施日：第1回（オンライン） 令和6年8月9日（金）

第2回（オンライン） 令和6年8月22日（木）

第3回（オンライン） 令和6年8月28日（水）

第4回（現地） 令和6年10月27日（日）



参加者：10名（大学生2名、行政職員3名、教員1名、スポーツ推進委員1名、一般3名）

【AED研修会】

地域クラブの指導者、保護者の方を対象にAED研修会を開催。

安心、安全に子どもたちの指導ができるよう取り組みを実施。地域クラブの指導者だけでなく、生徒保護者にも案内をかけて実施した。

実施日：令和6年7月6日（土）

開催時間：14：00～15：00

場所：消防署

参加人数：指導者6名

保護者4名



受講者の声

〔ソフトボール指導者：20代 女性〕

・これまで、地域クラブの指導に関わらせていただいて、子どもたちの「やる気」、「ニーズ」がそれぞれ違い、目標も多様であるため、どのように声掛けをして良いか悩ましい現状がありました。今回、指導者研修会を受講して、地域クラブ（組織）を運営していくうえで一番大切になってくるのが、「クラブ理念」であることがよく理解できました。「クラブ理念」をよく理解してもらい、子ども達個々の目標設定をさせて今後の指導を行いたいと思います。

〔陸上競技指導者：50代 男性〕

・これまで学校部活動は、「教員と生徒との関係」、「生徒同士の関係」で成り立ってきており、その学校の中に閉ざされた活動であったと感じています。これからは、地域全体というフィールドの中で、保護者、地域、様々な多世代の方を巻き込みながら開かれた活動にしていくことが大切であることが分かりました。

〔軟式野球指導者：30代 男性〕

・ただ「頑張る」のではなく、練習の意図を理解したうえで取り組むことが大切であることがよくわかりました。子ども達をサポートできるよう、指導者も学び続けなければならないと思いました。

今後の対応方針

- ・引き続き「青山学院大学陸上部」と「アスリートキャリアセンター」が共同開発した「クラブコーチ育成カリキュラム」の研修を実施し、生徒の多様なニーズに応えられる指導者の養成や資質向上の取組を進める。
- ・スポーツ・文化芸術団体の指導者のほか、退職教員、兼職兼業の許可を得て地域での指導者を望む教員、大学生など、様々な関係者から指導者を確保する。スポーツ・文化芸術団体等の協力を得ながら、指導者の発掘・把握に努め、人材バンクを整備する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

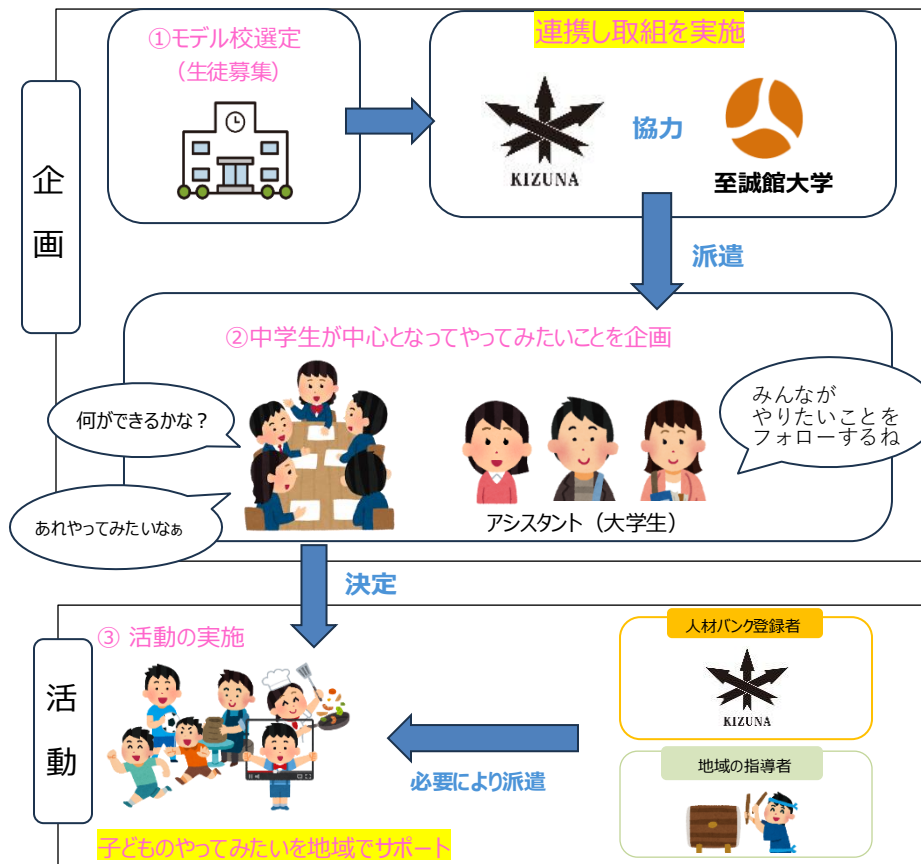


取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項/イメージ図

中学生の「やってみたい」に応えるため、絆スポーツクラブ萩及び至誠館大学が、平日の放課の活動を見越した実証として、生徒と企画から実施までを一体となって行う取組を実施。多世代との交流や、自主的で、自発的な活動を通して地域社会に参画する機会を創出することを目的に、子どもの新たな居場所づくりに取組んだ。



取組の成果 《令和6年度 モデル2校の取組》

《第1回目》自己紹介とやりたい事の確認 (洗出し)

対象生徒：24名 ※小学校5, 6年生 + 中学校1, 2年生
スタッフ：大学生 (3年生) 3名



対象生徒：7名 中学校1, 2年生
スタッフ：絆スポーツクラブ萩：1名、大学生 (2年生) 3名



《第2回目》実施種目・活動内容の決定



〔実施種目〕
・ソフトバレーボール
(ルールは大学生が決定)



〔実施種目・活動〕
・サッカー、漬物づくり
(施設、指導者の交渉を行う)

《第3回目》活動の実施



〔実施種目〕
・学校の小中学校の生徒 (小中一貫校) で
学生が考えた、ソフトバレーボールのルールで
活動を実施。
(ボールを風船、鈴を入れる等工夫)

《第3回目》活動の準備 (交渉)



・中学生自ら、地元の指導が出来る
ような方へ指導していただけるか
交渉。

今後の課題と対応方針

〔成果〕

- ・大学生やスタッフとの関係構築が図れ、多世代交流を実施できた。
- ・教員免許状取得を目指す大学生にとって、中学生と交流することで良い経験を積めた。
- ・生徒同士で様々な意見を出し合い、「やってみたい」活動の創出から実施までができた。

〔課題、対応方針〕

- ・次年度以降も、事業を継続していきたいが、学生の派遣頻度、学校の選定 (広域で講師、スタッフの移動時間) 等に課題がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



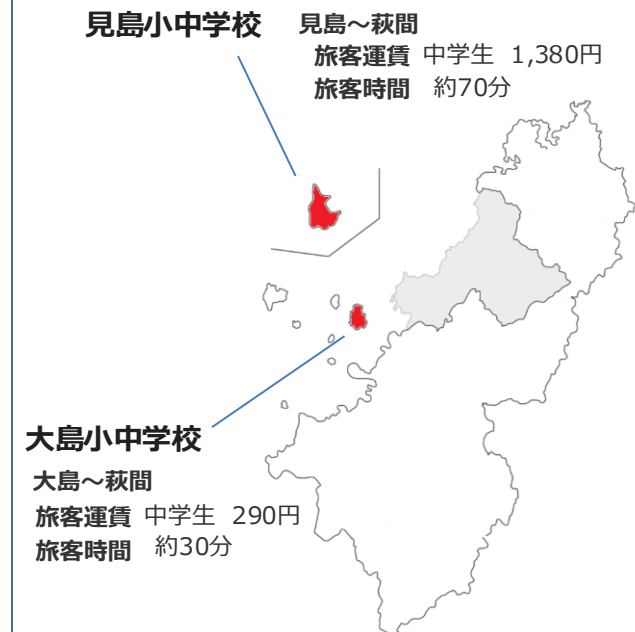
取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

オンライントレーニング指導（ICTを活用した取組）

「青山学院大学陸上部」と「一般社団法人アスリートキャリアセンター」が連携し、青山学院大学陸上部がトレーニング前に実践しているウォーミングアップ「青トレ」をオンラインで、島嶼部の中学校（小学生含）に対し実施した。学校部活動では、日没までに下校しなければならず、ウォーミングアップも十分に出来ないことが多いため、ウォーミングアップを中心としたオンライントレーニングを実施した。



実施した生徒の感想

- ・ウォーミングアップの大切さについて学びました。ウォーミングアップの後に手足が軽くなったように感じたので、これからもやってみようと思いました。
- ・青トレ講座を通して、ウォーミングアップの大切さについて学ぶことができたので、次からウォーミングアップを積極的におこなってみたいです。
- ・体育の時に準備運動をしっかりと、体を柔らかくしたいです。
- ・これから、おうちや学校で、ウォーミングアップをしっかりとしてから走りたいと思いました。

今後の課題と対応方針

- ・島嶼部の生徒は、特に平日移動して地域クラブ活動に参加することが難しいことから、ICTを活用して、子ども達をサポートする仕組みの構築が必要。
- ・今回、ウォーミングアップでの実証であったが、各競技種目の専門練習となった際には、実施方法の検討や、指導者が必要となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

地域の資源生かしたスポーツ体験会の開催

萩市の川上地域には、県営のダムとしては日本有数の規模を誇る阿武川ダムがある。ダムによって水量が安定供給されることから、ダムから放流される豊かな水量を利用したカヌーの競技場が設置されている。

日本代表クラスの選手などが参加するカヌー・ジャパンカップ等全国規模の大会を毎年開催しており、本年は、そうした地域資源を活用し、カヌー協会協力の基、体験会を開催し、参加者の興味関心を得る取組を実施した。また、同地域では、小学校の体育館にボッチャの常設コート（ライン）を整備しており、年齢、性別、障がいの有無に関わらず全ての人が共に活動できるボッチャの普及も兼ね体験会を実施。地域移行は、様々なニーズがあるため、誰もが取り組みやすい種目も取り入れていく。

取組種目：カヌー体験会

実施日：第1回目 令和6年 9月22日（日）参加者 5名

第2回目 令和6年10月12日（土）参加者 5名

指導者：体育協会関係者（カヌー協会）



今後の課題

- ・実際に行ってみると楽しく、関心が高いが「ウォーターセーフティ（安全）」対策を考慮する必要がある。
- ・季節的なスポーツとなるため、実施時期が限られる。

取組種目：ボッチャ体験会

実施日：令和6年 9月15日（日）参加者 5名

令和7年 1月29日（水）参加者 8名

指導者：スポーツ推進委員（指導者バンク登録）



今後の課題

- ・今後、より活動の幅を広げていきたいが、今回実施した会場までは距離があったため、保護者引率が必須であった。他会場で実施する場合、ラインテープ等の準備が必要となるため、会場の確保が課題となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行なった。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

- ・ホームページ構築費用（30千円）
- ・事務用品（30千円）
- ・税理士報酬 等

■ランニングコストの分析

- ・指導者謝金（614千円/年間）
- ・事務局人件費（130千円/年間）
- ・消耗品費（30千円/年間）
- ・連絡アプリ使用料（66千円/年間）

〔その他〕

- ・大会参加費、登録費（生徒実費）
- ・会場費（R6は使用料減免で検証）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

○1,600円/時給で地域クラブを実施した結果 ※4月～2月末まで
※陸上競技、ソフトボール 平日2h、休日3h 週3回程度
※軟式野球 平日2h、休日3h 週2回程度
※3月上旬および体験会は除く

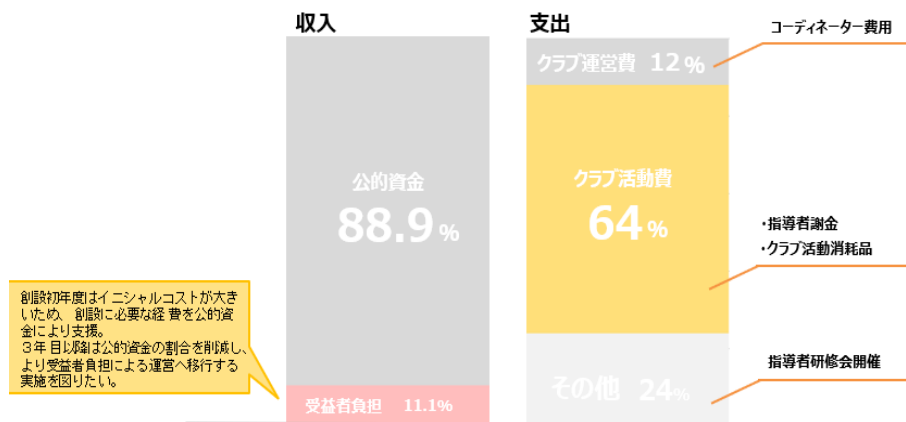
会費収入2,629,000円 - 支出（謝金）額 5,617,600円
= -2,988,600円

※指導者の人数を減らすと活動に安全運営に影響がでる懸念がある

○1000円/1回 とした場合、1,162,000円の黒字となり、事務局人件費等の確保の見込みがある額となるがイニシャルコストは賄うことは難しい

参加者からの低廉な会費徴収のみでは財源が不足している。持続可能な活動を行っていくうえでは、民間企業からの寄付や、ふるさと納税を活用した取組を実施していく必要がある。

収支バランス



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

地域クラブに係る経費

令和6年度は新たに2つの地域クラブを創設し取組を行ったが、地域クラブの運営には、運営スタッフ・指導者謝金、クラブに最低限必要な消耗品、指導者育成のための研修会の開催等大きな経費（イニシャルコスト）が必要となる。

クラブ活動に必要な備品や消耗品等についても、現在は学校が所有しているものを借用しているが、将来的には学校の予算から切り離されるため買い替えるための費用が必要となる。

地域クラブの持続的な活動を行うためには公的資金に頼りすぎないクラブの運営体制を構築していく必要がある。

創設初年度はイニシャルコストが大きいため、創設に必要な経費を公的資金により支援。3年目以降は公的資金の割合を削減し、より受益者負担による運営へ移行する実施を図りたい。

収入

公的資金
88.9%

受益者負担 11.1%

支出

クラブ運営費 12%

クラブ活動費
64%

その他 24%

コーディネーター費用

・指導者謝金
・クラブ活動消耗品

指導者研修会開催

部活動の地域クラブ移行には持続可能な運営を実現させるためには、財源確保が必須であり、参加者からの低廉な会費徴収のみでは財源が不足してしまうため、引き続き民間企業からの寄付や、ふるさと納税を活用した取組を実施していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

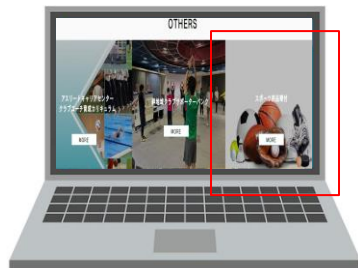
●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②（HPを活用した企業からの協賛金、スポーツ用品寄付の募集）

取組の成果

地元企業からの協賛金により、充実した活動の実施。

HPに協賛金募集のバナーを設置。市内企業より協賛をいただき、道具等を支援いただいた。会費収入だけでなく、地域クラブ運営を支える仕組みを構築。

協賛金は、イベント（講師謝金）や、備品購入に使用した。



HPによる協賛（道具）募集

どんどん うどん
D O N D O N



有限会社大玉建設



協賛企業ロゴを添付し、企業PRを地域クラブ側も行った



トップアスリートの講習会を開催

スポーツ用品の寄付で子ども達の持続可能なスポーツ環境の整備

HPにスポーツ用品寄付募集のバナーを設置。様々な方より道具の寄付をいただき、地域クラブ運営を支える仕組みを構築。

（寄付された道具例）

・ジャージ、バット、ヘルメット、ストレッチポール、スパイク 等



頂いた道具等の寄付は、クラブSNS等を通して周知した

今後の課題と対応方針

部活動の地域クラブ移行には持続可能な運営を実現させるためには、財源確保が必須であり、参加者からの低廉な会費徴収のみでは財源が不足してしまうため、引き続き民間企業からの寄付や、ふるさと納税を活用した取り組みを実施していく必要がある。また、生活困窮世帯への支援の在り方を検討していくことが必要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等 ク：その他の取組 （平日の学校施設を活用した地域クラブ活動）

取組事項

萩市では、これまで平日4日間部活動の活動を実施していたが、令和6年9月（2学期）より、すべての公立中学校に対し、平日の活動日を平日は3日間とする部活動の段階的縮小の取組を実施。本取組は、地域での活動に子どもたちが向かっていくために実施するもの。
 また、萩市では「陸上競技部」と「ソフトボール部」は、休日は学校部活動を完全に地域移行を実施しており、平日の部活動が開いた時間に地域クラブ活動として活動を開始している。

〔従来の活動日〕

(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
休	部活	部活	休	部活	部活	地域クラブ

〔R6.9月以降の活動日〕

(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
休	地域クラブ	部活	休	部活	部活	地域クラブ

取組の成果

これまで、学校部活動は日没時刻を目途に下校時間を設定していたため、活動の時間が30分程度しか取れない状況であったが、地域クラブ活動では、下校時刻にとらわれず、活動を行うことができた。



指導者の属性や配置の工夫

- ・社会人は、16時～18時の時間帯は、勤務があり、指導に向かうことが難しいため、希望する学校教員が、兼職兼業届を提出して、平日の16時～18時の時間帯の地域クラブの指導にあたった。
- ・16時以降は、学校教育から社会教育に切り替えて実施したため責任の所在が明確であった。

今後の課題

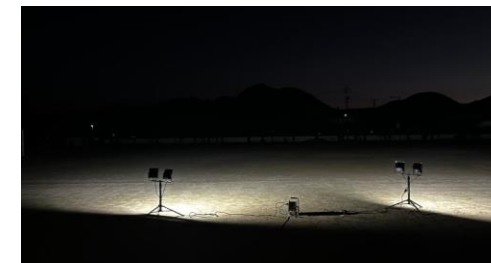
- ・活動する学校施設によっては、照明設備がなく、持ち運び式のLED照明を設置して、地域クラブ活動を実施した。今後、子どもたちの安全な活動のためハード面の整備検討が必要。
- ・希望する教員（兼職兼業届提出）により成り立っている活動であること。教員は人事異動があるため、教員に頼りすぎない活動基盤の構築、仕組みの整備が必要。
- ・市内中心校の生徒は参加できるが、旧郡部の生徒は移動が難しいため参加できない状況であった。活動に格差が生じないよう検討していく必要がある。



教員の協力



学校体育施設の整備（照明施設等）が必要



2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業では、新たな地域クラブの拡充の他、生徒の興味・関心・意欲向上を目的とした、体験会（カヌー、ソフトテニス、ボッチャ）の開催、大学生を活用した、生徒の自主的・主体的な参加による企画活動など様々な活動を通じた実証を行った。

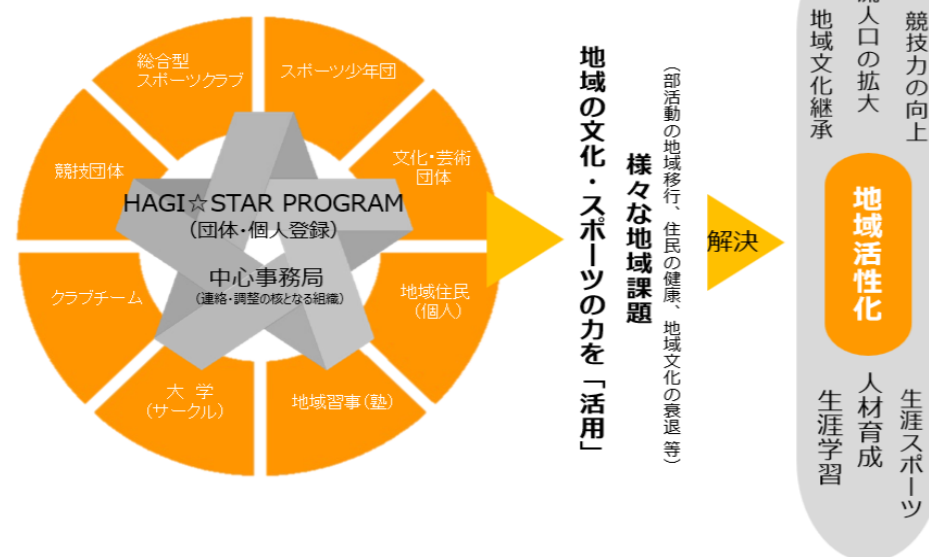
こうした背景には、これまで萩市では地域クラブの拡充を重点に置き、取組を進めてきたが、萩市は他市に比べ広域であり、少子高齢化も進行しているため、地域ではより、受け皿の確保や生徒の移動が難しいことから、地域クラブの拡充を行っていくことは重要なことではあるが、地域格差がより広がってしまうことが分かった。また、取組を進める中で、情報が正確に伝わっていないこと、地域クラブ移行に関する周知理解が広がっていないこと、市内の教員の8割が部活動の従事を望んでいないことが分かり、「地域移行」から「地域展開」への考え方を広げていかなければ、今後の取組が難しい状況が分かった。本市としても、これを踏まえ、少子・高齢化の中でも将来にわたり子ども達がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、必要な対応について、「部活動会改革推進会議」の中で協議し、令和8年4月からの休日地域クラブ活動への移行及び令和8年8月から平日を地域クラブ活動への移行について、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現、よりよい活動環境の創出を今後もしていかなければならない。

●成果の評価・今後に向けて

令和7年1月に開催した「第9回部活動改革推進会議」萩市の今後、目指していく新たな活動の場「HAGI ☆ STAR PROGRAM（ハギスタープログラム）」の方向性等を整理を行った。

今後の事業実施に当たって、「HAGI ☆ STAR PROGRAM」組織の基本的な考え方や実施内容を関係者により協議を重ね、「地域全体」で作り上げる「地域展開」を実施していく。令和7年度は、改革推進期間以降の、将来的な枠組みや運営方策の検討等を視野に入れて、地域クラブ活動の維持・運営に必要なコストや受益者負担等と公的資金の適切なバランスの検証、経済的困窮世帯への参加費用負担支援の金額・スキームの検証などの取組を検討していく。令和7年に開催される「部活動改革推進会議」では上記の方向性等を整理し、検討、協議していきたい。

新しい時代を切り拓く組織づくり



2.実証内容と成果②

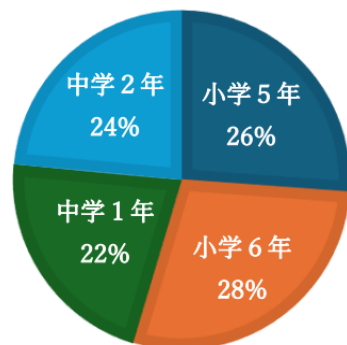


〔アンケート結果はこちら〕

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

調査対象：萩市立小学校5・6年生 551名
萩市立中学校1・2年生 538名



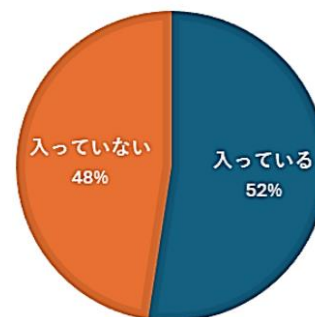
学年	在籍数	回答数	回答率
小学5年	265	211	79.6%
小学6年	286	229	80.1%
小学校合計	551	440	79.9%

学年	在籍数	回答数	回答率
中学1年	263	178	67.7%
中学2年	275	192	69.8%
中学校合計	538	370	68.8%

全体	在籍数	回答数	回答率
総計	1089	810	74.4%

あなたは、現在、スポーツまたは文化・芸術等の地域の活動（クラブチームやスポーツ少年団等を含む）に入っていますか。 ※学校部活動は含まない

■入っている ■入っていない



選択肢	人数
入っている	423
入っていない	387

選択肢	人数
入りたい	62
入りたいと思わない	192
迷っている	133

選択肢	人数
活動費がかかる	39
移動手段がない	47
時間がない	56
その他	28

学年	小5	小6	中1	中2
入っている	117	129	85	92
入っていない	94	100	93	100

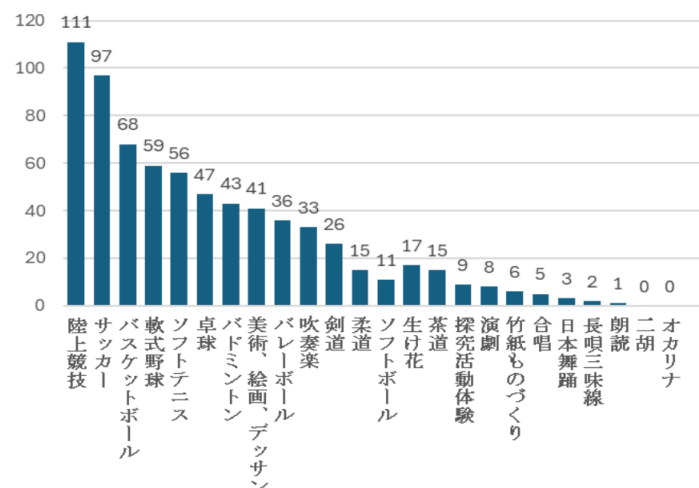
学年	小5	小6	中1	中2
入りたい	20	17	15	10
入りたいと思わない	39	43	43	67
迷っている	35	40	35	23

【その他の理由（抜粋）】

- ・自分の地域でできる種目が分からない
- ・他地域の人の関係性が不安、知り合いが少ない
- ・船で出てくるのが大変だから
- ・まだ種目を決めていない

など

どのような活動をしているか、してみたいか。（複数回答可）



自由記述の分類

- 児童生徒：自由記述回答数 194件/810件（記述率 24.0%）
- 保護者：自由記述回答数 344件/810件（記述率 42.5%）
- 合計：自由記述回答数 538件/1620件（記述率 33.2%）

【児童生徒】

項目	割合
受け皿	31.6%
活動の目的	15.3%
移動	14.4%
部活動の在り方	8.4%
練習時間・回数	8.4%
周知理解	7.4%
施設	3.7%
活動費用	2.3%
指導者	1.9%
スケジュール	1.4%
その他	5.1%

【保護者】

項目	割合
移動	29.8%
受け皿	20.9%
活動費用	12.6%
指導者	8.0%
練習時間・回数	7.0%
活動の目的	4.8%
部活動の在り方	3.7%
周知理解	3.0%
スケジュール	3.0%
施設	2.0%
その他	5.2%

【合計】

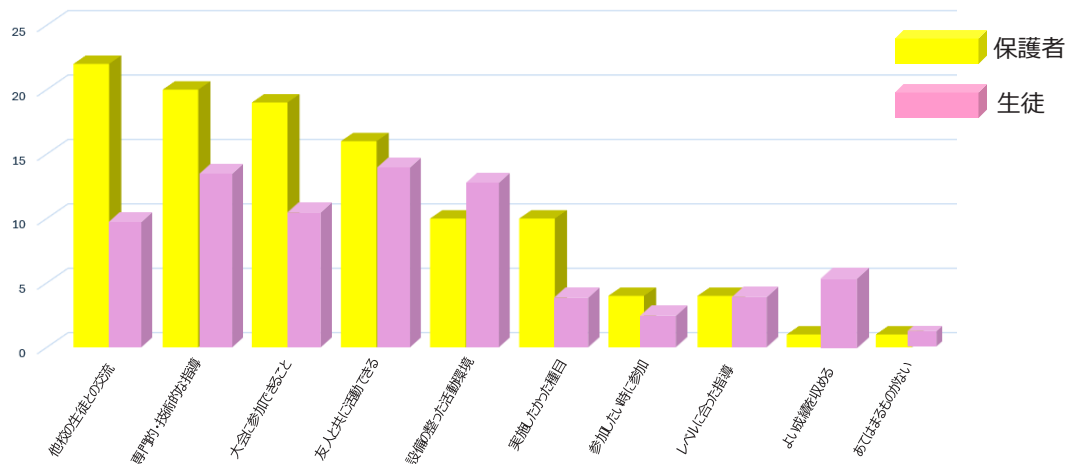
項目	割合
移動	24.9%
受け皿	24.3%
活動費用	9.3%
活動の目的	8.1%
練習時間・回数	7.4%
指導者	6.1%
部活動の在り方	5.2%
周知理解	4.4%
施設	2.5%
スケジュール	2.5%
その他	5.2%

2.実証内容と成果②

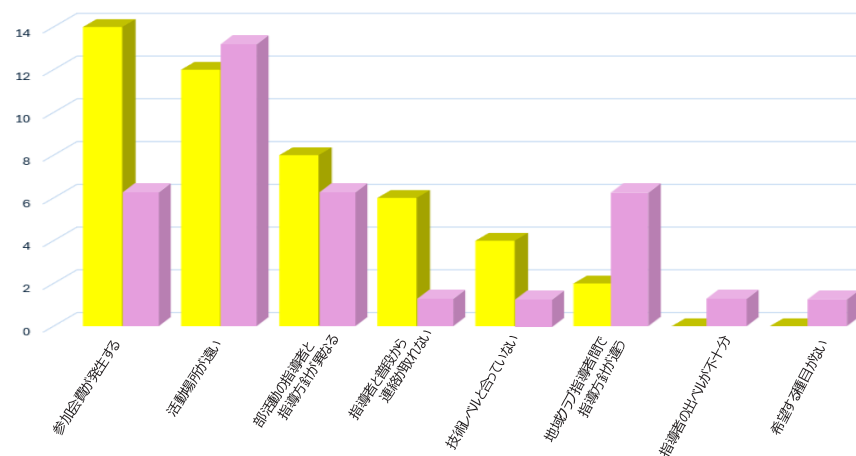
アンケート結果・参加者の声

●地域クラブに関わっている生徒・保護者へのアンケート（地域クラブ実施分）

Q.学校部活動と比較して、地域クラブ活動に参加できるようになってよかったこと



Q. 地域クラブ活動に参加する中で、課題に感じる事



保護者回答数：37名 生徒回答数：23名

生徒（陸上競技）

地域クラブ活動では、レベルにあった指導や、目標に応じた指導をしてもらえるので、ありがたいです。
活動場所が、学校と、地域のグラウンドですが、雨の日など活動が難しくなることもあるので、部活動同様、校舎内を使わせてもらえたらうれしいです。

生徒（ソフトボール）

地域クラブ活動では、ソフトボールができる環境が整い、大会等に参加できてよかったです。一方、活動時間が遅いことや、活動場所までに距離があるので、移動の課題があると思います。

生徒（軟式野球）

地域クラブ活動では、専門的な指導や、多世代の方との交流ができるので良い活動ができています。

指導者（陸上競技：60代女性）

地域クラブ活動では、生徒に対し、どのような声掛けをして良いかなど、生徒を知るまでに時間がかかると感じています。そのため、よく学校と連携して、生徒のことを知ったり、限られる活動日の中で、生徒とよくコミュニケーションを取ることが重要だと思います。学校教育とは違う中で、指導者も試行錯誤しながら取り組みを進めています。

広報資料

【萩市における部活動改革の取組】 (絆スポーツクラブ萩)



<https://youtu.be/uer3HdAu5GA>

【萩市の今後目指す方向性】 (原監督メッセージ付)



<https://x.gd/Wgcfs>

【大学生と連携した取組】 (地域サポート活動)



<https://youtube.com/watch?v=fxLiynFi-4E&feature=shared>

【民間企業の協力について】 (地元企業による指導者派遣)



<https://youtu.be/8J2mUgMiEQ4?si=AlYUgKyt9fMRWhHz>

【萩市での研修会の様子（オンライン）】 (クラブコーチ育成研修会)



<https://youtu.be/QScbYPRsF44?si=anXUBDMufNr6CjYa>

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【第9回部活動改革推進会議の様子】



【青山学院大学陸上部と連携した取組（交流人口の拡大）】



【大学生と連携した地域サポート活動】



【青山学院大学陸上部と連携した地域クラブを立ち上げ
（絆ランニングクラブ萩）

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

協議会設置、
検討開始

(移行スケジュールの決定)

令和5年

実証事業開始
指導者研修会
受け皿の拡充

関係団体、生徒、
保護者への説明

令和6年

実証事業開始
指導者研修会
受け皿の拡充

9月～

クラブ化した種目は原則
学校では大会出場
をしない(陸上部、ソフトボール部)
部活動活動日縮小の
取組 (4日間 → 3日間)

1月

第9回部活動会
推進会議

(スケジュールの見直し)

●ステークホルダー

学校、生徒、保護者協会、競技団体、文化団体、市教委、総括コーディネーター、コーディネーター、PTA連合会、市議会、至誠館大学、青山学院大学陸上部

●経過

- 令和5年度より部活動改革推進会議を設置。萩市、青山学院大学陸上部、(一社)アスリートキャリアセンター、(一社)絆スポーツクラブ萩の4社協定を締結し、部活動地域クラブ移行に係る取組を開始した。
- 先行取組種目として、萩市内の陸上競技部の休日の学校部活動を廃止。
- 第7回部活動改革推進会議において、「萩市部活動改革のスケジュール」※を示した。
※令和8年4月から、休日の学校部活動を終了し、さらに8月の新チームからは、平日を含むすべての学校部活動を地域移行を目指す。
- 令和6年度より萩市教育委員会内に部活動改革推進室の設置、総括コーディネーターを配置し、CS1プロジェクト(コミュニティ・スポーツ文化・ワン)の取組を実施。
※中学校区のコミュニティに小中一貫指導を行う1つのスポーツクラブ設立により、生活圏内で身近で活動できるスポーツ、文化クラブの創設をめざす。
- 令和6年1月 第8回部活動改革推進会議を開催し、「萩市における部活動改革推進組織」について「地域クラブの認定要件について」の協議。
- 令和7年1月 第9回部活動改革推進会議を開催し、「萩市部活動改革のスケジュール」の一部見直し案を提案。

●実施内容

(令和6年度の主な取組)

- 原則クラブ化した種目について学校部活動としての大会参加はなし。
- 令和7年度は、原則、すべての学校部活動で、平日の活動日は週3日以内とする。
(対象種目：陸上競技、ソフトボール)
- 大学との連携により、地域クラブが少ない周辺地域の中学校へ大学生を派遣し、「やってみたい」活動の創出や多世代との交流等、自主的で、自発的な活動を支援していく。(地域サポート活動)
- 10月 萩市内の小学校5,6年生、中学生1,2年生、またその保護者を対象にアンケート調査を実施。
(回答数：小学校計440名/551名、中学校計370名/538名)
- 11月 萩市内学校教員に対し、兼職兼業に関する希望調査アンケートを実施
(回答数：教員数計315名/340名、262名(83%)が協力できないと回答)

●実施にあたって生じた課題

- 原則クラブ化した種目について学校部活動としての大会参加はなし。
→ 秋の陸上新人大会について地域クラブで出場し、総合優勝を獲得した一方、生徒の出場選択の機会を奪っているのではないかと意見があった
- 令和7年度は、原則、すべての学校部活動で、平日の活動日は週3日以内とする。
→ 受け入れ団体確保の取組を実施する中で、部活動を縮小することは、生徒は行き場のない中、活動機会が奪われることとなるのではという意見があった。
※当初予定は、R7は部活動の平日の活動日は週2日とする予定としていたが、平日の活動日は週3日以内を継続することとなった。

●今後の展開

- 広域で島嶼部もあり、他市に比べて少子化が進行する萩市にとって、単に部活動を地域クラブに移行するのみでは、子ども達の多様なニーズを叶えていくことは難しいことが分かった。
- 「地域移行」が進まない理由の一つに、「情報が正確に伝わっていない」事が分かり、今後は「地域移行」から「地域展開」という多様な地域人材により、多様なスポーツ・文化芸術活動を通じて子どもたち一人ひとりが生涯にわたって、星のように輝くことができるよう「地域全体」でサポートする仕組みの構築が必要である。
- 萩市では、「地域全体」で子ども達をサポートする部活動に変わる「新たな活動の場」「HAGI ☆ STAR PROGRAM (ハギスタープログラム)」の取組を今後実施、展開する。

中学校部活動



(例)
・陸上競技部
・卓球部

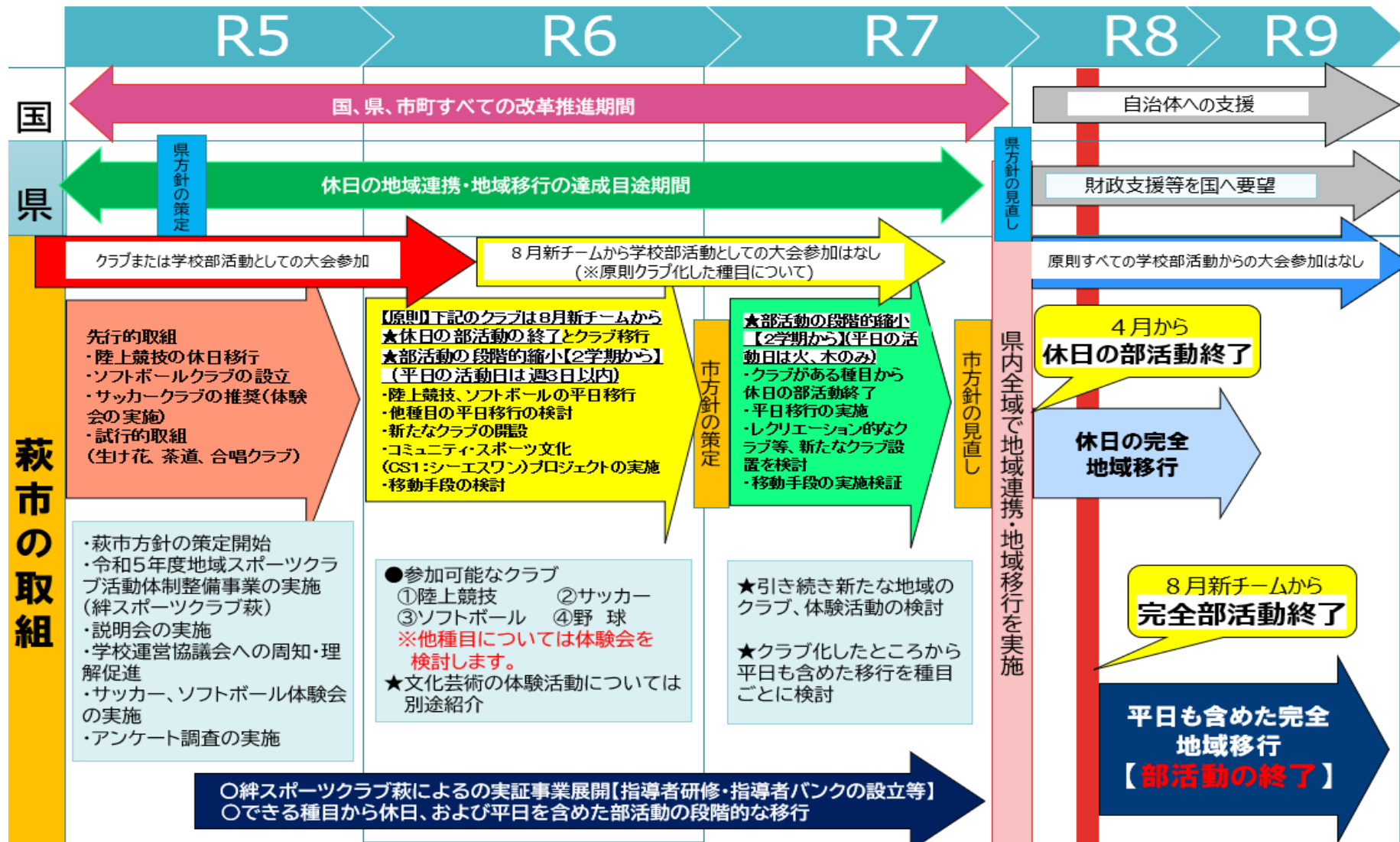
様々な活動



3. 今後の方向性① (スケジュール)

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ（第7回 部活動改革推進会議時策定）

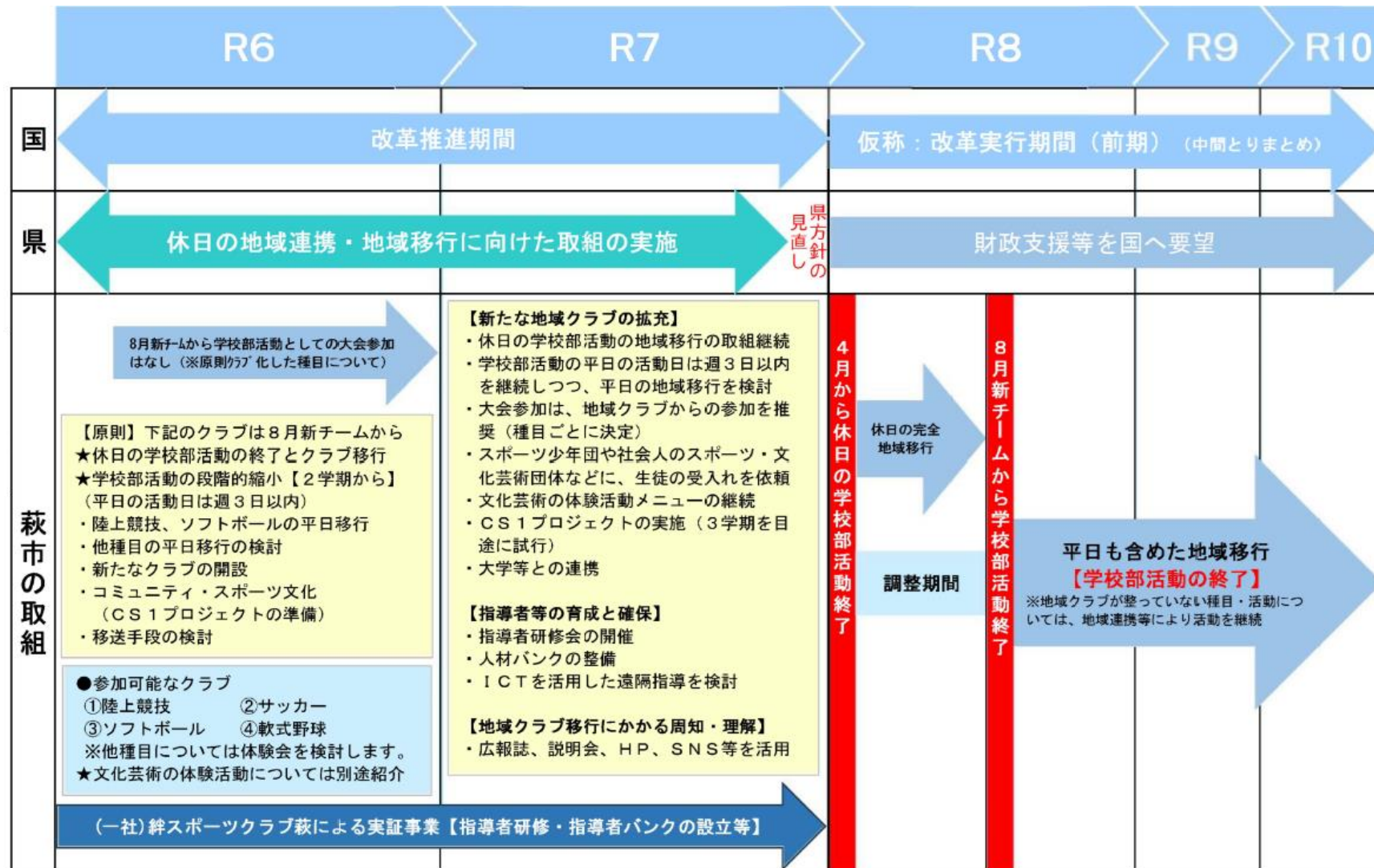
中学校部活動の移行にかかる改革のスケジュール



3. 今後の方向性② (スケジュール)

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ（第9回 部活動改革推進会議以降変更）

萩市における中学校部活動の地域移行（一部地域連携を含む）にかかる改革のスケジュール



3.今後の方向性③-1 (目指す姿)

萩市が考える新たな活動の場のイメージ

～地域移行から地域展開へ～



(ハギ スター プログラム)

HAGI ☆ STAR PROGRAM

〔HAGI ☆ STAR PROGRAM とは〕

様々なスポーツ・文化芸術活動を通じて、子どもたち一人ひとりが生涯にわたって、星のように輝くことができるよう「地域全体」でサポートする仕組みです。

〔HAGI ☆ STAR PROGRAM コンセプト〕

- ★部活動に無かった新種目や気軽に取り組める活動など、多様な活動を確保し、ニーズに合った活動の場を「地域全体」で提供します。
- ★持続可能なスポーツ・文化芸術活動を構築し「地域全体」で未来に繋いでいきます。
- ★「地域全体」で子どもたちの挑戦を支え、子どもたちを育てます。

01

地域クラブ活動

従来の学校の部活動に
変わる新たな活動の場

02

CS1活動

(コミュニティ・スポーツ文化クラブ)

生徒の活動を各中学校区で
支える活動の場

05

地域サポート活動

05

地域サポート活動

地域のサークルや団体、学生など多様な地域
住民がサポートする活動の場

04

04 スポーツ・文化芸術
体験活動

スポーツ・文化芸術 体験活動

興味・関心・意欲向上を 目的

03

地域習事活動

従来からある地域の習い事



3.今後の方向性③-2 (目指す姿)

萩市が考える新たな活動の場のイメージ

～地域移行から地域展開へ～

新しい時代を切り拓く組織づくり



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山口県 防府市

自治体名：山口県防府市

担当課名：教育委員会学校教育課

電話番号：0835-25-2241

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	189.37 km ²
人口	113,791 人
公立中学校数	11 校
公立中学校生徒数	2,867 人
部活動数	84 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

少子化の進展に伴い、学校単位では、生徒の希望する部活動がない、または、思うように活動できないといった状況が予想される。令和6年度の各校部活動の状況を見ても小規模校では選択肢がほとんどないのが現状である。

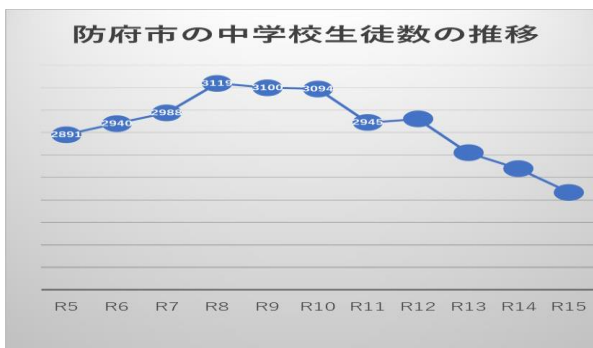
当市では、今後、改革推進期間である3年間で、学校部活動では支えきれなくなっている、スポーツ・文化芸術活動を、学校だけではなく、行政、家庭、地域が連携して、地域全体で子どもたちの多様な体験機会を確保するために、地域移行を進める。

その中で、指導者不足が深刻な問題である。学校教員に代わる指導者の確保が難しく、特に

専門的な技術指導が求められる種目では人材不足が顕著である。また、地域ごとの人材差も課題となっている。

次に、保護者の費用負担の増加である。移行に伴い活動費や施設利用料が保護者負担となり、一部の家庭では経済的な理由で参加を断念する事態も想定される。

最後に関係者の意識改革である。学校、地域、保護者がそれぞれの役割を見直し、新たな運営体制を受け入れるためには、相互理解と協力が不可欠となり、積極的な啓発活動を進めていかなければならない。



防府市教育委員会調査 (R6~R11)
防府市年齢別人口統計 (R12~R15) より推計

令和6年度 各校部活動設置状況

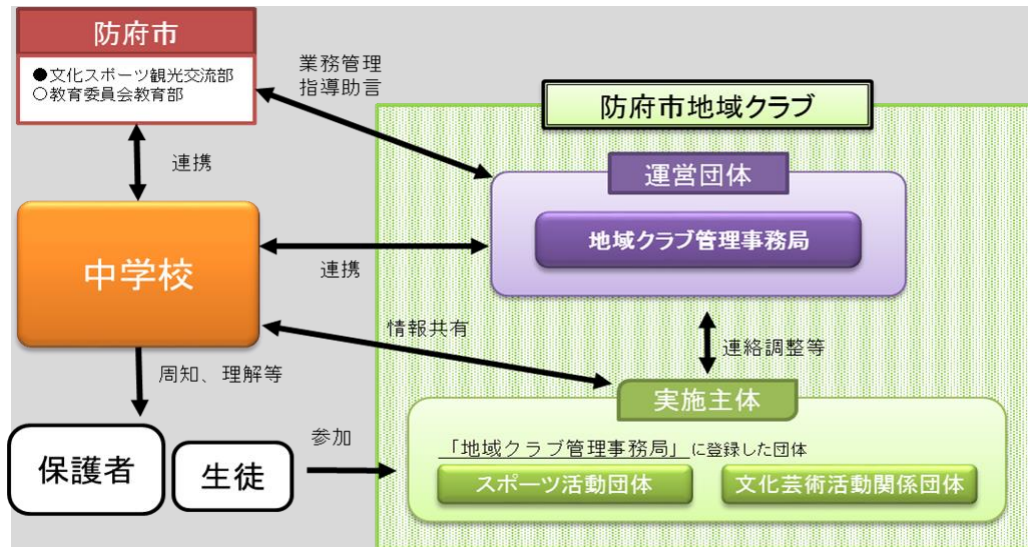
	富海	牟礼	国府	小野	右田	佐波	桑山	華陽	華西	大道
運動系	軟式野球 サッカー 男子バスケット 女子バスケット 男子バレー 女子バレー 男子卓球 女子卓球	軟式野球 サッカー 男子バスケット 女子バスケット 男子バレー 女子バレー 男子卓球 女子卓球	陸上競技 軟式野球 サッカー 男子バスケット 女子バスケット 男子バレー 女子バレー 男子卓球 女子卓球	陸上競技 軟式野球 サッカー 男子バスケット 女子バスケット 男子バレー 女子バレー 男子卓球 女子卓球	陸上競技 軟式野球 サッカー 男子バスケット 女子バスケット 男子バレー 女子バレー 男子卓球 女子卓球	陸上競技 軟式野球 サッカー 男子バスケット 女子バスケット 男子バレー 女子バレー 男子卓球 女子卓球	陸上競技 軟式野球 サッカー 男子バスケット 女子バスケット 男子バレー 女子バレー 男子卓球 女子卓球	陸上競技 軟式野球 サッカー 男子バスケット 女子バスケット 男子バレー 女子バレー 男子卓球 女子卓球	軟式野球 サッカー 男子バスケット 女子バスケット 男子バレー 女子バレー 男子卓球 女子卓球	軟式野球 サッカー 男子バスケット 女子バスケット 男子バレー 女子バレー 男子卓球 女子卓球
文化系	吹奏楽 音楽 美術 家庭科・手芸 QOL	吹奏楽 音楽 美術 家庭科・手芸 QOL	吹奏楽 音楽 美術 家庭科・手芸 QOL	吹奏楽 音楽 美術 家庭科・手芸 QOL	吹奏楽 音楽 美術 家庭科・手芸 QOL	吹奏楽 音楽 美術 家庭科・手芸 QOL	吹奏楽 音楽 美術 家庭科・手芸 QOL	吹奏楽 音楽 美術 家庭科・手芸 QOL	吹奏楽 音楽 美術 家庭科・手芸 QOL	吹奏楽 音楽 美術 家庭科・手芸 QOL

出典：防府市中体連調査 (令和6年度)

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課、教育総務課）

- ・学校や各競技団体、文化芸術団体との連絡・調整、活動場所の調整
- ・人材バンクの設立・運営
- ・部活動改革推進会議の運営や県との連絡調整

◎首長部局

- ・スポーツ振興課・・・指導者の確保、活動場所の環境整備
- ・文化振興課・・・指導者の確保、活動場所の環境整備

年間の事業スケジュール

令和6年4月	柔道・剣道地域クラブ活動の実施（モデル）
令和6年5月	アンケート調査（児童・生徒・保護者・教職員）
令和6年6月	第1回部活動改革推進協議会の開催
令和6年8月	軟式野球地域クラブ活動の実施（モデル）
令和6年10月	第2回部活動改革推進協議会の開催
令和6年11月	吹奏楽地域クラブ活動の実施（モデル）
令和7年1月	学校・保護者・児童への説明会の開催
令和7年1月	柔道・剣道・軟式野球の地域クラブの各団体へアンケートの実施
令和7年2月	第3回部活動改革推進協議会の開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	11校	実施した地域クラブ総数	7クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3クラブ（8部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		4クラブ
全体の指導者数	32人	全体の運営スタッフ数	38人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
防府柔道クラブ	柔道	柔道	週5回	16:00 ～18:00	1年 8人 2年 9人 3年 0人	R6.4.1 ～ R7.3.31	桑山 中学校	9人	1人 (内、兼務 0人)	月会費 3,000円	地域クラブ
松崎少年剣友会	剣道	剣道	週4回	19:00 ～21:00	1年 3人 2年 3人 3年 7人	R6.4.1 ～ R7.3.31	松崎 小学校	6人	1人 (内、兼務 0人)	月会費 3,000円	地域クラブ
協和少年剣友会	剣道	剣道	週4回	18:00 ～20:00	1年 10人 2年 5人 3年 3人	R6.4.1 ～ R7.3.31	協和発酵 有隣館	4人	2人 (内、兼務 0人)	月会費 3,000円	地域クラブ
右田少年剣友会	剣道	剣道	週4回	18:30 ～20:30	1年 0人 2年 3人 3年 2人	R6.4.1 ～ R7.3.31	右田 中学校	3人	1人 (内、兼務 0人)	月会費 2,000円	地域クラブ
防府クラブ	軟式野球	軟式野球	週5回	16:30 ～18:30	1年 7人 2年 11人 3年 0人	R6.8.1 ～ R7.3.31	佐波 中学校	3人	0人 (内、兼務 0人)	月会費 5,000円	地域クラブ
防府ジャイアンツ	軟式野球	軟式野球	週5回	17:00 ～19:00	1年 12人 2年 14人 3年 0人	R6.8.1 ～ R7.3.31	華陽 中学校	3人	1人 (内、兼務 0人)	月会費 5,000円	地域クラブ
国府クラブ	軟式野球	軟式野球	週4回	16:30 ～18:30	1年 7人 2年 16人 3年 0人	R6.8.1 ～ R7.3.31	国府 中学校	4人	0人 (内、兼務 0人)	月会費 5,000円	地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●剣道の1クラブは体験会のチラシを配付し、令和6年3月末から数回にわたり体験会を開催。その他の剣友会と柔道クラブは、随時見学を受け。●軟式野球は市からクラブ化に向けて保護者説明会を実施した後、それぞれの3クラブが独自にチラシを作成し、春季休業中にクラブ説明会と体験会を開催。夏季にも、再度体験会を実施。

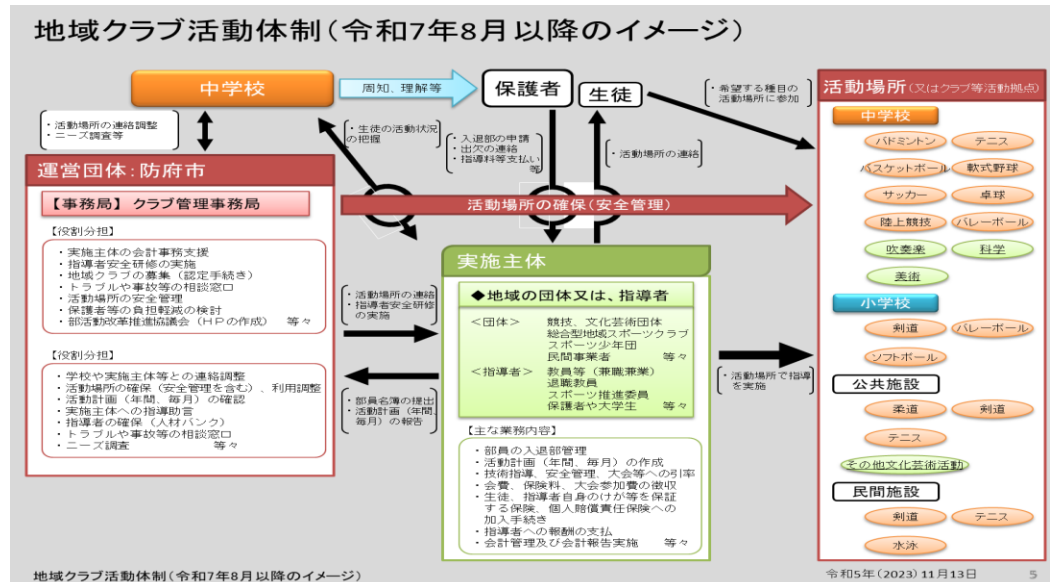
2.実証内容と成果

主な取組例

●防府市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	柔道、剣道、軟式野球
運営団体名	各クラブ団体
期間と日数	柔・剣道：4月1日～3月31日 月16～20回程度 野 球：8月1日～3月31日 月20回程度
指導者の主な属性	柔剣道は、スポーツ少年団の指導者 軟式野球は、中学校の顧問が引き続き指導する者が多い。
活動場所	公立小中学校の体育館およびグラウンド
主な移動手段	ほとんどの生徒が自転車及び徒歩 遠方の生徒は保護者送迎が多い。
1人あたりの参加会費等（年額）	柔・剣道：24,000～36,000円 軟式野球：60,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 市は会場の安全管理および会計事務の補助業務を行う。
- 代表責任者
役割：指導および大会引率と生徒の出席状況の確認、保護者連絡を行う。
- 主任指導者 3～6名
役割：日常の指導に携わる。
- 運営補助者 1～3名
役割：会費の集金、指導者への謝金支払い、大会参加に向けての参加計画を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○クラブ管理事務局の総括コーディネーターと推進員に加え、新たに事務職員の人員を3名加え、競技団体との調整を行うとともに、クラブの会場確保や備品の調達、会計事務の支援を行った。

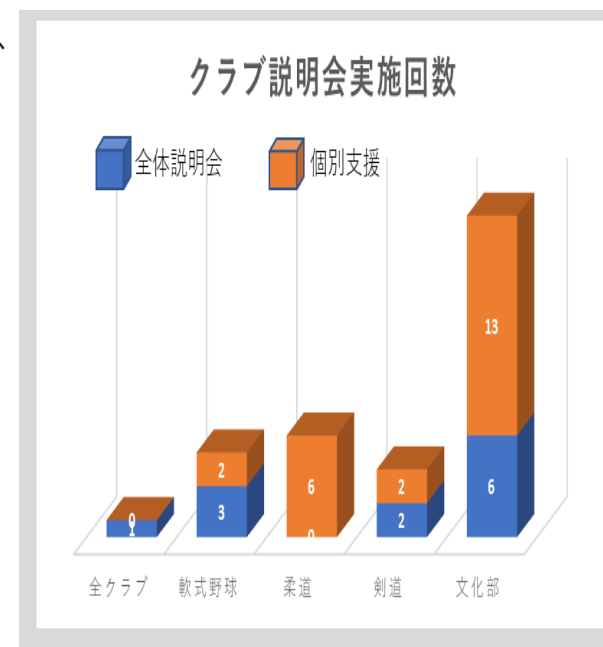
○学校の施設内を活用する場合のセキュリティおよび備品や消耗品の調達に関する課題解決に向けて取り組んだ。

取組の成果

○会計担当者を保護者が担うクラブが多く、未経験であるため、担当者に対して、説明会を行い、税務署への申請、謝金や交通費の支払いだけでなく、委託金の使用状況を確認し、様々な支援を行った。

○クラブごとに会計事務説明会を実施し、相談があったクラブには個別支援をすることで、会計事務をスムーズに行うことができるようになった。

○モデル事業だけでなく、今後立ち上げるクラブに対しても、関係団体への説明、専門部への説明を繰り返すだけでなく、リーフレットを作成し、配付することで、地域クラブに対する理解が深まってきた。



【クラブ管理事務局業務月報より】

コーディネーターの具体的な動きの実績

○地域クラブ化に向けて、関係団体への説明、中体連各種目専門部への説明会の実施、保護者会の開催などを行い、周知を図ってきた。モデル事業に対しては、会計事務担当者への支援を行うことと、活動していく中で課題を聞き取り、今後の新たなクラブの立ち上げに向けて整備を行う。

今後の課題と対応方針

○地域クラブに関わる指導者は、高齢者が多く持続可能なクラブにするためにも若い指導者の育成が急務である。

○夕刻の時間帯に指導可能な者がいないため、どうしても教員の力を借りなければならない。地域の人材発掘にも力を入れていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- 教職員アンケートで指導者の洗い出し。
- スポーツ協会の集まりに参加したり、各関係団体へ説明に赴いたりして指導者登録を依頼。
- 市報などで指導者登録の記事を掲載。
- スマートフォンから登録できるように工夫。

人材バンクの人数

26名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	0名
30代	5名
40代	7名
50代	9名
60代以上	15名

登録者属性

- スポーツ協会の会合で知った。
- 協会や連盟の集まりの際、説明を受けた。
- 市の広報紙で知った。
- クラブ管理事務局の説明で知った。

種目

- 軟式野球
- ソフトボール
- バスケットボール
- バレーボール
- バドミントン
- 陸上競技
- ソフトテニス
- 合気道その他5種目

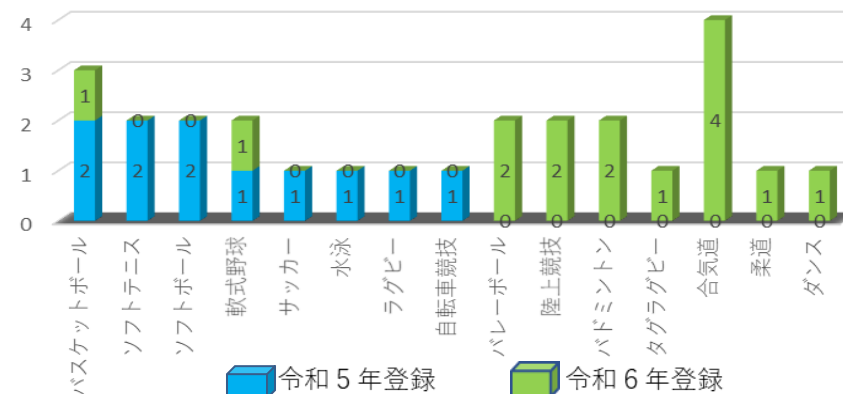
資格有無

- 中体連の大会に出場するためには公認資格が必要となる為、各団体で資格を有した者が少ない。
- 資格のない者については、研修を受けてもらうことで指導に携わってもらうことにしている。

取組の成果

- 人材バンクの指導者登録数は令和5年には11名だったが、令和6年には26名に増えた。部活動の地域移行の問題が学校関係者しか知らないため市民には理解されていなかったものが、次第に周知されることによって少しずつではあるが増やすことができた。
- 人材バンク以外からも個別に指導者を発掘し指導者になってもらった方も多い。登録者以外に柔道6人、剣道13人、軟式野球10人いる。
- 部活動の地域移行を予定している他の種目においても、指導者を51名確保できた。まだまだ十分とはいえないので引き続き指導者を発掘していきたい。

令和5，6年度指導者登録数



【防府市指導者登録一覧より】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- 学校部活動の地域移行と指導者の関わりについて
- 事例を踏まえた新たな地域クラブ活動の在り方やクラブの運営について
- スポーツ指導者が身につけておくべき倫理と法知識
- 緊急時の対応（救急救命）について
- 山口県の学校部活動の方針及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針に則った活動と中学生の心と身体について
- 中学生の地域スポーツ・文化芸術活動における事故防止と危機管理の対応について
- 中学生年代の積極性を引き出す関わり方
- 文化芸術活動の指導の在り方について ～心をつなぎ合う支援～
- 著作権について

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 令和6年11月30日および12月1日
- ・開催回数： 2日間
- ・参加人数： スポーツ活動 14人 文化活動16人
- 指導に携わる方で、中学生の指導経験のない方には受講を義務づけている。教員として部活動指導経験の豊富な方や公認資格を有する者は免除している。部活動にはない新たなクラブの指導者の参加が増えたことは喜ばしいことである。

受講者の声

- 参加者の多くが、新潟県村上市NPO法人希楽々理事長の話を聞き感銘を受けたと答えている。地域クラブというものが、どういうものなのかがイメージできたという声を聴いた。
- 学校と地域が融合しなければならないという話を聞いたが、教員が関わらないというのはどういうことかと疑問をもつ方もいた。
- 持続可能なクラブにするためには、指導者や生徒が通いやすい場所を拠点として活動することができると良い。一般の人は学校の敷居が高く、公民館などの市の施設を利用できると良いという感想をもった。
- 周りの人を巻き込むことの重要性が理解できた。目標をもたせてもらえる良い研修で会った。
- 救急救命などの安全に関する研修は何度受けても良いと思った。

今後の課題と対応方針

- 中体連の大会に出場するためには、ほとんどの種目が公認資格を有した者がいなければ大会に参加ができない。そのため公認資格を有する者がいない種目はクラブを立ち上げることに消極的である。移行期間においては、中体連も柔軟な対応をしてもらいたい。
- 指導者が公認資格を取得する際に、自費で講習を受けることはほとんどない。指導者を増やすためには、受講費の補助を支援していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- これまで活用していた学校施設を無償で提供し、利用時間も延長した。
- 夜間利用していた団体と交渉し、活動場所を確保した。
- 活動に必要な設備や備品を有効利用できるように整備した。
- 教員以外の指導者が立ち入る場合の、出入り口と施錠の管理などの責任を明確にし、セキュリティの課題解決に尽力した。
- 県立高校や公民館を活用する団体に中学生の受け入れを依頼した。

取組の成果

- これまで部活動で活動していた時間帯だけでは地域の指導者が集まらず、21時までの夜間の時間帯にも地域クラブが活用できるようにした。その際、利用していた団体に曜日や時間を変更するなどの調整を行った。
- 夜間に活動するクラブがあれば、屋外において照明が必要となる。照明を利用できる時間帯を調整するなど利用できる環境整備を行った。
- 活動に必要なボールなどの備品・消耗品はこれまで部活動で利用していた物を引き続き利用できるように学校や父母会などと調整を行った。
- 県立高校のグラウンド利用や公民館活動の団体に中学生の受け入れを了承してくれる公民館と団体が増えた。

1 夜間に活動する地域クラブ数

種 目	地域クラブ数
剣 道	3
卓 球	3
バドミントン	3
バレーボール	3
バスケットボール	2
サッカー	1
ソフトテニス	1

2 公民館受け入れ団体数

令和 5 年度	
2 公民館	14 団体



令和 6 年度	
6 公民館	19 団体

【地域クラブ認定申請手続き一覧より】

今後の課題と対応方針

- 令和 7 年 8 月にはスポーツの部活動が、11月には文化庁がクラブ化になる。更に認定団体が増えれば、中学校だけの活動場所の確保が難しい状況である。曜日や時間帯を調整することで、地域クラブ数を増やしたい。
- 教職員が部活動から離れることで、学校施設の管理が難しくなる。門扉、校舎や体育館の施錠、グラウンド照明の管理、道具の保管など施設管理者との調整が必要になる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行

取組事項

○改革推進期間後を見据えた取組を推進する観点から、休日だけではなく平日も含めた地域スポーツクラブ活動への移行に向けた取組等を実施し、課題の抽出や課題解決策の検討等を行った。

○具体的には、休日に加えて、平日の学校運動部活動（全ての学校の柔道、剣道、軟式野球）を地域クラブ活動にモデル事業として実施。

取組の成果

○柔道、剣道、軟式野球について、全ての中学校の部活動を休日に加えて、平日も含めて、地域クラブ活動として実施。

○休日、平日ともに同一の指導者による計画的・継続的な指導をすることができた。

○指導者が変わらないことで、生徒のストレスの軽減や、モチベーションの維持など、オン・オフの切り替えにもつながった。

種目	クラブ名	平日	休日	会費	指導者数
柔道	防府柔道クラブ	4日	1日	3,000	9人
剣道	松崎少年剣友会	3日	1日	3,000	6人
剣道	協和少年剣友会	3日	1日	3,000	4人
剣道	右田少年剣友会	3日	1日	2,000	3人
軟式野球	防府クラブ	4日	1日	5,000	3人
軟式野球	防府ジャイアンツ	4日	1日	5,000	3人
軟式野球	国府クラブ	3日	1日	5,000	4人

指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性
○頂点をめざしたい指導者と楽しく基本を指導したい指導者とがいる。

・配置の工夫
○可能であれば、全国大会出場をめざすチャレンジクラブと、楽しく活動するエンジョイクラブを立ち上げることで、生徒の能力や希望に応えられるようにしたこと、3エリアに分けているが、どのクラブでも生徒が選択できるようにした。

○地域間の移動を可能にするためバスによる移動を考えている。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

○市内を東部、中部、西部の3エリアに分けて、各エリアに地域クラブを立ち上げると、小学校で活動していたメンバーが、分かれる現象が起きた。小学校と中学校で一貫指導できるように、小学校区で分類する種目を作った。

○スポーツ少年団の指導者が、地域クラブでも指導する体制ができた種目もある。（柔道、剣道、軟式野球）そのお陰で、小学校で指導していた方が引き続き指導できる体制が整った。

今後の課題と対応方針

○中体連の大会には、学校ごとに出場枠が設けられていたが、地域クラブ化することで、大幅に出場枠が減少する結果を産むため、県中体連による出場枠の見直しが必要。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○クラブ管理事務局に人員を増やし、クラブ立ち上げだけでなく、立ち上げたクラブの会計事務補助等クラブが自力で運営できるように支援してきた。

○指導者登録だけでは人が集まらないため、講習会への参加を促すことで指導資格者を増やす努力をした。

○クラブの活動する施設と活動に必要な道具の整備をすることで、指導者への負担軽減に努めた。

○夕刻の時間帯は勤務の関係で指導できる人が、いないのが現状であり、活動時刻を夜間にするなどして、指導者の確保に努めた。その結果、夜間に活動していた団体と会場の調整をしなければならない状況が発生するなど、新たな課題が見つかった。

○県内でいち早くクラブ化を進めてきた関係で、中体連主催大会への出場枠の減少や、公認指導者資格所有者の引率が出場条件など、大会へ出場する条件が厳しくなっている。そのため、県中体連や各専門部に条件を再考するよう交渉を行った。

●成果の評価

○各クラブに対して会計事務の支援をしてきたが、担当者は保護者の方が多く、クラブ独自で運営していくためには引き続き行政の支援の必要性を強く感じる。

○公認指導者資格を所有していない方に指導者になってもらうためには、講習会の受講を義務づけている。県指導者研修会は年1回の開催しかないが、多くの方が参加した。更に指導者を増やすために市独自で研修会を開催することを考えたい。

○夜間の時間帯でしか指導できない人のために、夜間の活動場所を確保する必要がある。地域クラブ優先に活用できる制度作りと利用者への協力を依頼したい。

○出場枠の問題を訴え続けてきた結果、新たな出場枠を各種目で協議する機会が増えてきている。指導者の規制緩和は、関係団体から国へ訴えているが、厳しい状況である。

●今後に向けて

○今後、地域クラブを立ち上げようとする気運を高めるために、以下の新たに3つの支援を行う計画を立てている。

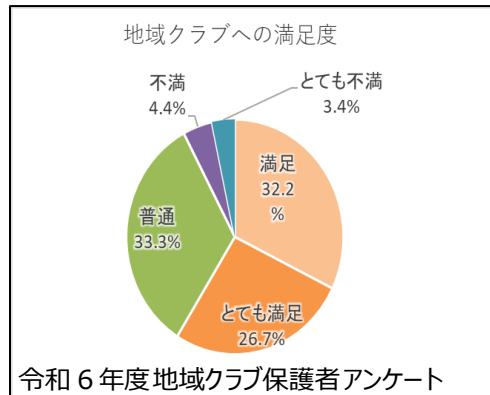
- 1 地域クラブに参加する生徒への支援
 - ・公共交通機関を利用した場合の全額補助 ・マイクロバスの導入による送迎
- 2 新たに立ち上がる地域クラブへの支援
 - ・必要な備品や用具類の購入を支援（ボール類、ユニフォームなど）
- 3 地域クラブへ参加する指導者への支援
 - ・公認指導者資格を取得するための費用の補助

2.実証内容と成果②

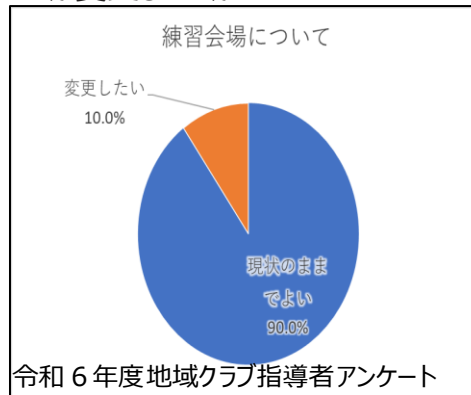
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

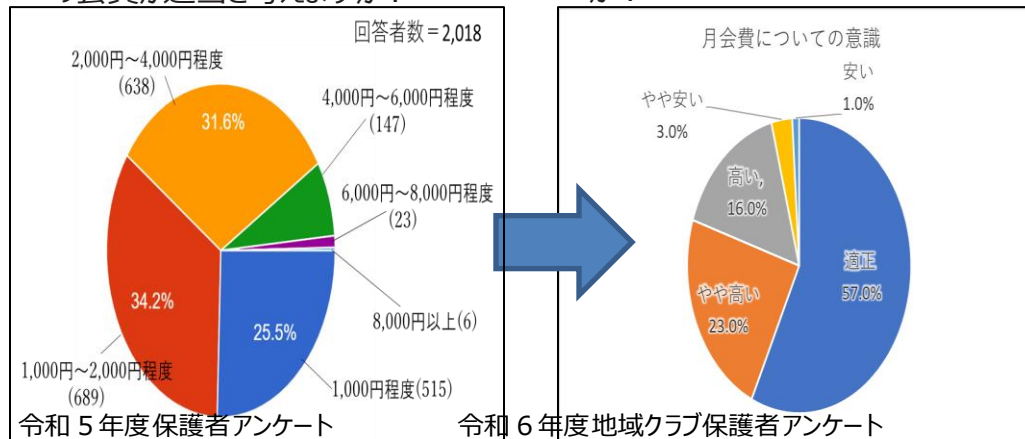
Q.あなたの所属する地域クラブに対して
どの程度満足していますか？



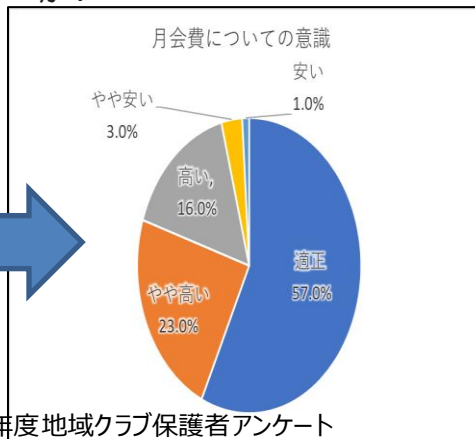
Q.練習会場について現状のままで良い
か変更したいか？



Q.地域移行した場合、月々どの程度
の会費が適当と考えますか？



Q.現在の会費について、どう思います
か？



●参加者の声

中学 2 年生

○これまで十分に練習することができなかったが、思いっきり全力で練習ができるようになり、県大会に出場出来た。そしてキャプテンとして沢山の経験ができました。

中学 1 年生

○身体的にも精神的にも強くなり、コミュニケーション能力も以前より高まった。
○専門の先生が熱心に教えてくださる。
○他校生徒と仲良くなれ、クラブの一員になれた気がする。

指導者

○防府市の中学軟式野球を存続させることができた。
○一年を通じて練習時間の確保ができる。他校の生徒と交流することで互いにいいものを学び合える良い環境になった。

保護者

○他校の生徒と仲良くなれ、レベルの高い練習や試合ができるようになった。
○専門的で丁寧な指導だけでなく、生活指導もしていただけ。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

○令和6年度はモデル事業を受けた軟式野球クラブが8月に、吹奏楽クラブが11月に地域クラブとして立ち上がることになった。軟式野球は募集のお知らせ、吹奏楽はクラブ説明会の開催をリーフレットで通知した。

○中学1,2年生と小学5,6年生に対してどんな種目を体験したいのかをたずね、立ち上げるクラブ数を決定した。保護者に対してはクラブ化になった際の不安点についてたずね、活動場所や会費の参考にした。

令和6年7月15日

防府市の学校部活動改革について

<NO.4>

軟式野球：令和6年8月から地域クラブ活動を開始します

○軟式野球部が地域クラブとして市内に3クラブ立ち上がることになりました。
週末テスト明けの7月から合同練習活動として、それぞれの活動場所で開催し、練習を随時します。8月から本格的に地域クラブとして活動します。
クラブ員の募集は、随時行っています。

クラブ名	国府クラブ	防府クラブ	防府ジャイアンツ
代表者	藤野 哲人	徳道 知雄	中村 龍典
活動場所	国府中学校	防府中学校	防府中学校
活動日	火、木、金、土曜日	月、火、木、金、土曜日	月、火、木、金、土曜日
問い合わせ	han726200@ychoa.co.jp	1103115@choa.co.jp	hoftu@ntd@nishi.co.jp

吹奏楽部：令和6年11月から3つの地域クラブが立ち上がります

クラブ名	SUO国府ウインドアンサンブル	桑の葉ウインドアンサンブル	神楽バスケット
指導者	谷村 一夫、堀島 沙朗	渡辺 美紀、山本 航佑	西中 紀子、山田 浩志
活動場所	国府中学校	防府中学校	桑山中学校

○各クラブが下記の日程でクラブ説明会を開催いたします。

- ★ SUO国府 8/6(火) 18:30～ 於 国府中
- ★ 神 楽 8/7(水) 18:30～ 於 桑山中
- ★ 桑の葉 8/9(金) 18:30～ 於 桑山中

サッカー & ソフトボール
令和7年4月から1年生対象にクラブ化へ

サッカー：「FC アルトゥーラ防府」

○サッカーは令和7年の4月に市内全域から新1年生(現小6)を対象に地域クラブとして1チームを立ち上げるようになりました。新2年生(現中1)は、各中学校で練習活動としての活動が終了した後、地域クラブへと移行します。
中休日の大会にも出場することができるクラブです。

○このクラブは、日本サッカー協会公認の指導者ライセンスや審判資格を有した教員を中心に設立します。今後、随時情報の提供や、説明会・体験会の実施をしていく予定です。

ソフトボール：「防府 Dreams」

○ソフトボールは、これまで桑山中と防府中の合同チームでしたが、市内全域から募集を行うので、どの中学校の生徒も参加が可能になります。
○各中学校にソフトボール部がないために、軟式野球部で練習していた生徒もソフトボールクラブで活動することができます。

※ その他の部活動は、令和7年8月から順次クラブ化していきます

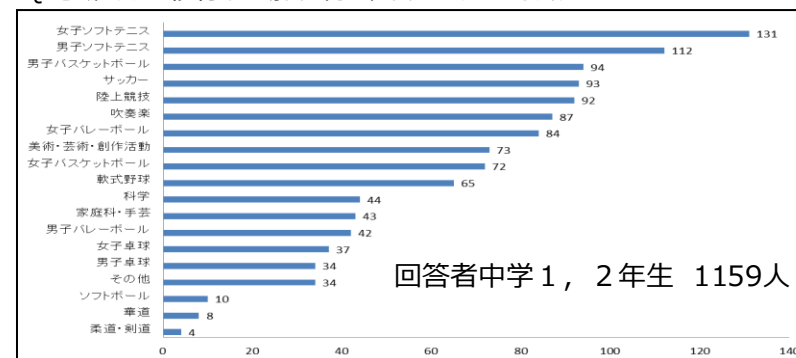
インターネット上で「防府市 部活動改革」で検索してください。中学校部活動の地域移行に関する情報を掲載しています。

防府市教育委員会 学校教育部
クラブ推進事務局 TEL:0835-25-2241
mail:choa@nefu.ed.jp

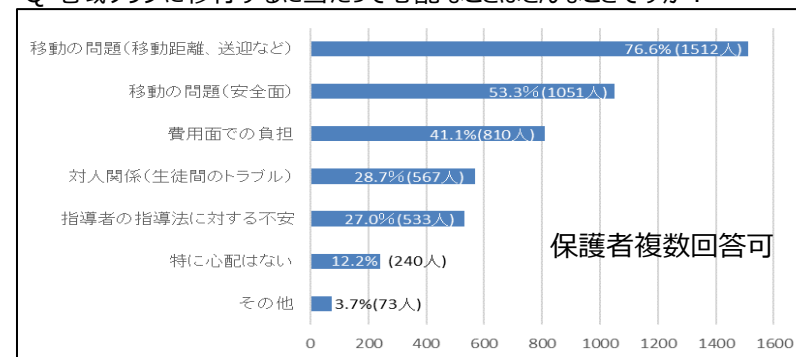
【生徒への参加啓発チラシ】

防府市部活動改革リーフレット 第4号より

Q 地域クラブに移行した場合、何の種目に入りたいですか？



Q 地域クラブに移行するに当たって心配なことはどんなことですか？



【アンケート結果】

令和6年度部活動の地域移行に関するアンケート結果より

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【軟式野球クラブ：防府クラブ キャッチボールの様子】



【剣道クラブ：松崎少年剣友会 打ち込み練習の様子】



【柔道クラブ：防府柔道クラブ 打ち込み練習の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和3年

研究指定校による実践研究開始

●ステークホルダー

防府市立牟礼中学校

●経過

部活動指導員の増員により、休日の部活動を地域の指導者に任せる取組を行った。

●実施にあたって生じた課題

部活動顧問と部活動指導員の指導方針の違いや連携の困難さが浮き彫りとなる。

●実施内容、工夫した点等

教職員の働き方改革による負担軽減に取り組んだ。
保護者の負担がどの位になるのか試算した。

令和4年

防府市部活動改革推進協議会の設置

●ステークホルダー

柔道スポーツ少年団、剣友会

●経過

各競技団体に説明を繰り返し、柔道は市内に1クラブを、剣道は6校あった部活動を3クラブにまとめる作業を行い、実証事業を行った。

●実施にあたって生じた課題

夜間の活動となり、保護者の送迎が必要となったり、塾の時間帯と重なり、参加が難しくなったりした。

●実施内容、工夫した点等

大会後に生徒と保護者に対して説明会を開き、クラブ化への理解と協力を呼びかけた。

令和5年

クラブ管理事務局の設置
柔道・剣道の
実証事業開始

●ステークホルダー

柔道・剣道クラブ、軟式野球クラブ、

●経過

柔道1団体、剣道3団体、軟式野球3団体を、地域クラブ活動のモデル事業として運用を開始。

●実施にあたって生じた課題

会場が遠い生徒の送迎の問題、安全に活動するための会場整備、活動に必要な道具の準備、道具の保管場所など学校の協力体制などが挙がってきた。

●実施内容、工夫した点等

自立したクラブ運営のために、会計事務担当者の説明会を開き、事務処理の支援を行った。

令和6年

柔道・剣道、
軟式野球、
吹奏楽のモデル
事業開始

●ステークホルダー

サッカー、バレーボール、ソフトボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球

●経過

それぞれの種目でクラブ化の準備作業を行う。受け入れ団体と活動場所の確保を行う。

●実施にあたって生じた課題

指導者の確保が一番の課題である。夕刻の時間帯に地域の方で指導できる方がいない。夜間の活動を含めて指導者と会場確保が厳しい状況である。

●実施内容、工夫した点等

県主催の指導者研修会に参加することを指導者資格の条件とした。
会場を確保するために地域クラブが優先利用できる体制を整えた。

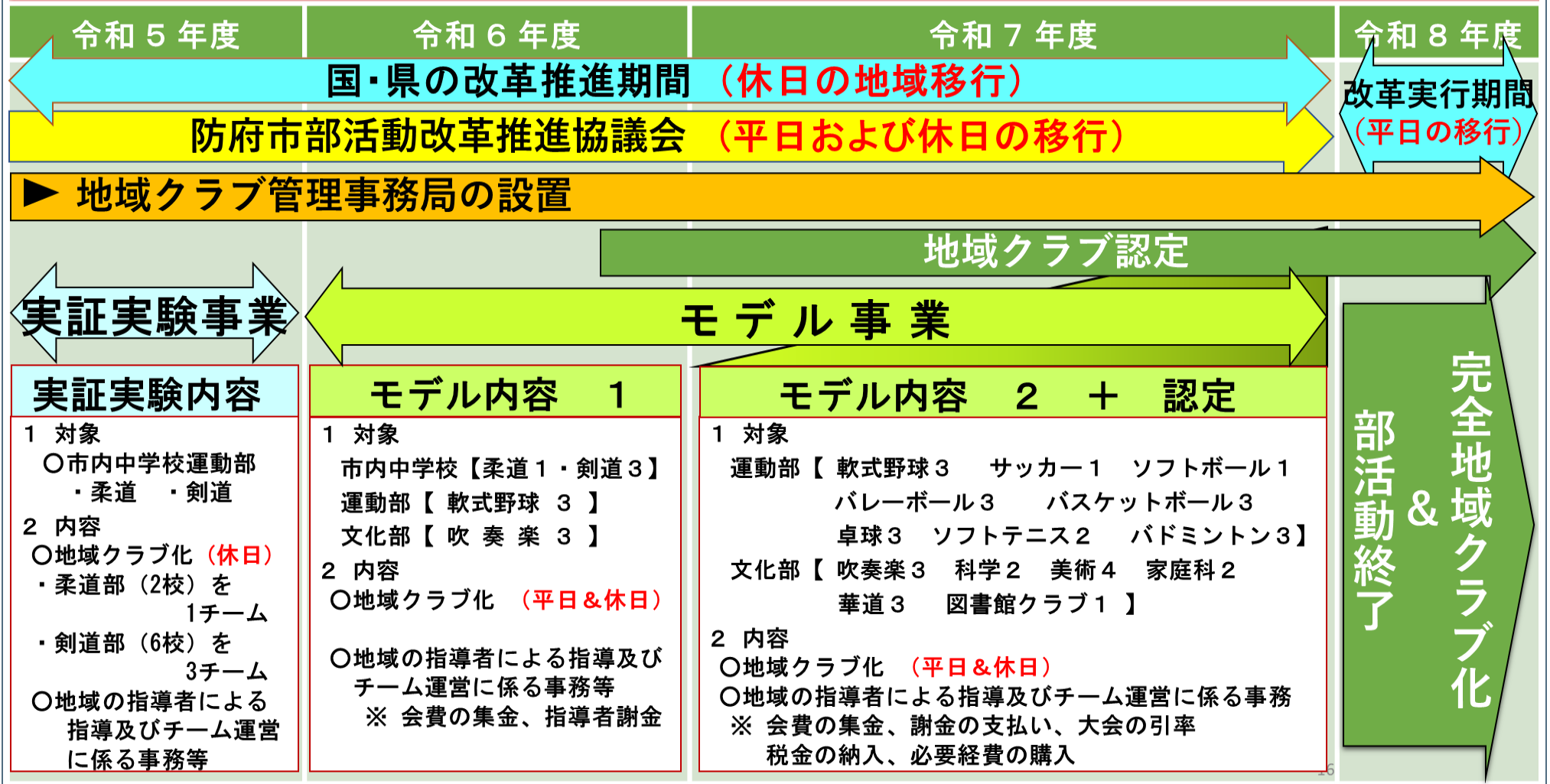
令和7年

地域クラブ活動の
拡大

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

地域クラブ化までの移行スケジュール



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山口県 長門市

自治体名：山口県 長門市

担当課名：スポーツ文化交流課 地域クラブ運営企画室

電話番号：0837-22-3526

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	357.9km ²
人口	30,634人
公立中学校数	5校
公立中学校生徒数	661人
部活動数	34部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

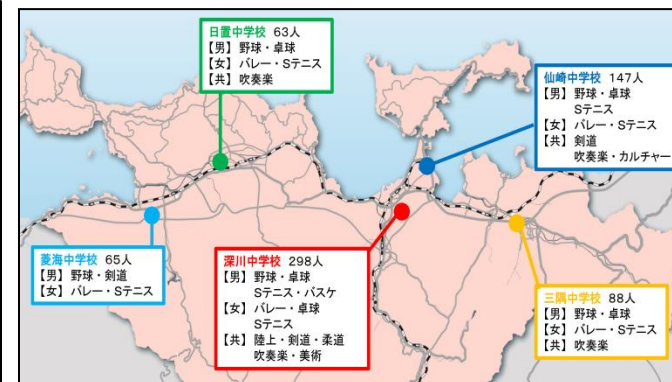
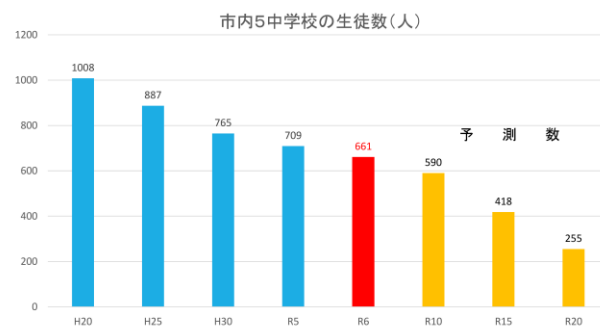
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、本市の中学校数は5校、生徒数は661名だが、急速に少子化が進行しており、令和20年には250人程度となる見込みである。市中心部に位置する深川中学校は、各学年3クラス編成、生徒数300名程度の中規模校だが、周辺4校（仙崎、三隅、日置、菱海）は各学年1～2クラス編成、生徒数60～140名程度の小規模校であり、設置されている部活動の種目選択肢に大きく格差が生じ、従来から格差解消の要望が多く寄せられていた。さらに近年は、学校の規模に関わらず、軟式野球やバレーボールの団体競技は、部員数が不足し、合同チームの編成を強いられる状況が続いている。また、部活動の指導が教員の時間外在校時間超過の一因となっており、負担軽減を図る必要がある。

以上のことから、各学校単位での部活動存続が困難な状況を改善すべく、部活動改革を進めたいが、過疎地域の小規模自治体である本市には受け皿となる団体や人材が乏しく、学校間の移動も徒歩や自転車では困難である。

そこで本市は、この部活動改革の取り組みとして、学校間をバス移動することにより、市内共通の種目選択肢を確保し、休日・平日ともにスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる市営地域クラブ「N A G A T Oスポーツ・カルチャークラブ」(通称Nクラ)を令和7年8月に設立し移行を目指すこととした。

長門市の中学校生徒数の推移

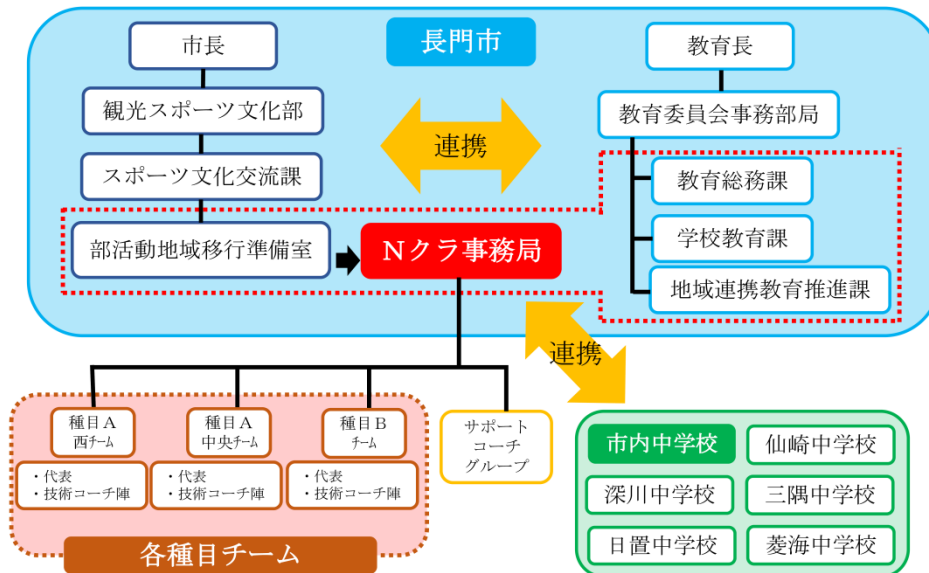


2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）

長門市営地域クラブ（Nクラ）組織体制



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・市内中学校との連絡調整
- ・学校施設開放、スクールバス活用等の検討
- ・その他、学校や教職員に関する諸課題の検討

◎首長部局

- ・部活動改革推進協議会の運営
- ・各関係者との連絡調整
- ・その他、市営地域クラブ（Nクラ）の設立等、移行に向けた諸課題の検討

年間の事業スケジュール

令和6年4月	市長部局に準備室を設置（教育委員会部局から移管）
令和6年5月	第7回部活動改革推進協議会
令和6年7月	第8回部活動改革推進協議会
令和6年8月	市内の全教職員向け説明会
令和6年9月	実証事業「卓球クラブ活動」 教職員向けアンケート 競技者向けアンケート
令和6年10月	第9回部活動改革推進協議会
令和6年12月	実証事業「陸上競技クラブ」 第10回部活動改革推進協議会
令和7年1月	実証事業「卓球クラブ体験会」 児童・生徒、保護者説明会1
令和7年2月	実証事業「柔道クラブ」 実証事業「剣道クラブ」 重点地域シンポジウム出席 児童・生徒、保護者説明会2
令和7年3月	第11回部活動改革推進協議会 実証事業参加者アンケート 児童・生徒意向アンケート
※随時	種目別関係者協議

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3クラブ（0部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	43人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
菱海卓球クラブ	長門市	卓球	週2回程度	15:00～16:30	中2	R6.9～R6.11	菱海中学校	15人	3人（他クラブと兼務）	会費0円/人	参加なし
長門市陸上競技クラブ		陸上競技	月2回程度	17:15～18:30	小6 中1～3	R6.12～R7.3	小河内総合グラウンド	11人		会費1,000円/人	
Nクラに向けた柔道クラブ		柔道	月2回	9:00～11:30	中1～2	R7.2	深川中学校	6人		会費0円/人	
Nクラに向けた剣道クラブ		剣道	月1回	9:00～11:30	中1～2	R7.2	長門武道館	11人		会費0円/人	

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●Nクラ卓球体験会 R7.1～2 計5回開催

●指導者・保護者等研修会 R7.2.16開催

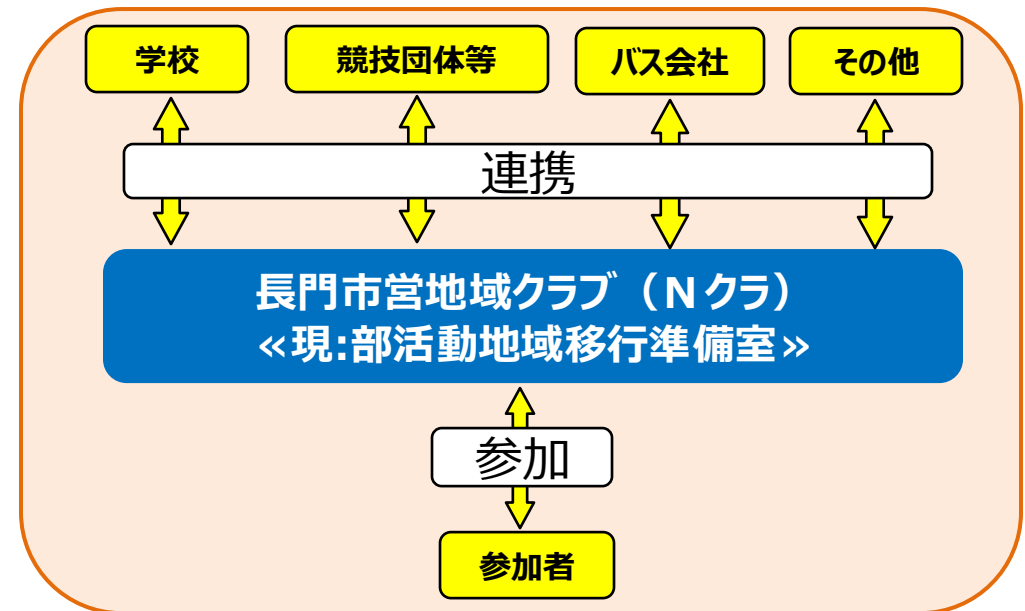
2.実証内容と成果

主な取組例

●長門市営地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球、陸上競技、柔道、剣道
運営団体名	長門市
期間と日数	卓球：9月7日～11月13日 週2回程度 陸上：12月18日～3月5日 月2回程度 柔道：2月8日～2月15日 月2回程度 剣道：2月8日
指導者の主な属性	各競技団体等から推薦を受けた公務員（兼職兼業）、一般競技者等
活動場所	学校施設、その他公共施設
主な移動手段	徒歩、自転車、バス
1人あたりの参加会費等（年額）	卓球、柔道、剣道：0円 陸上：1,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,200～1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 代表
役割：クラブ活動における統括
- 技術コーチ
役割：競技に対する専門知識を有し指導を行う
- サポートコーチ
役割：活動の安全管理や技術コーチのサポートを行う
- 準備室（事務局）
役割：各関係者との調整、事務処理全般

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

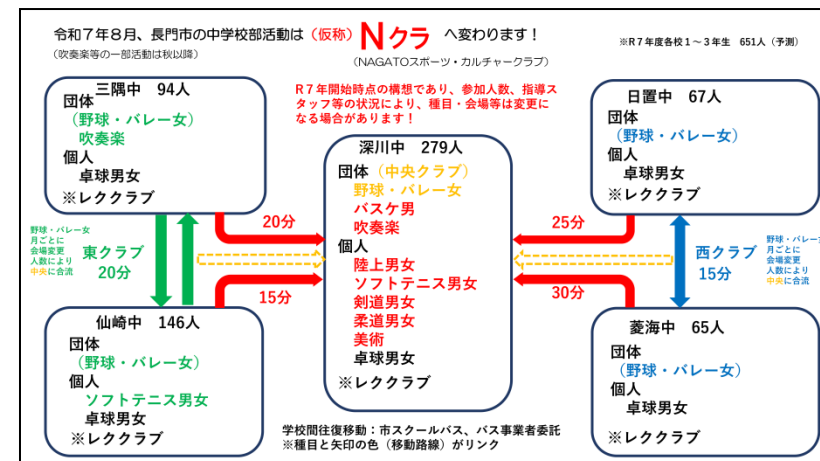
- ・部活動改革推進協議会を開催し、学校、スポーツ協会、保護者等との連絡調整を行う。
- ・市内の各種目関係者や学校部活動の顧問教諭等と随時協議を行うとともに、種目によっては、競技者向けアンケート調査を実施し、市営地域クラブの体制をより具体的に整備する。
- ・地域クラブ活動を一部試行的に実施する。
- ・連絡手段として長門市公式LINEアカウントを活用する。

取組の成果

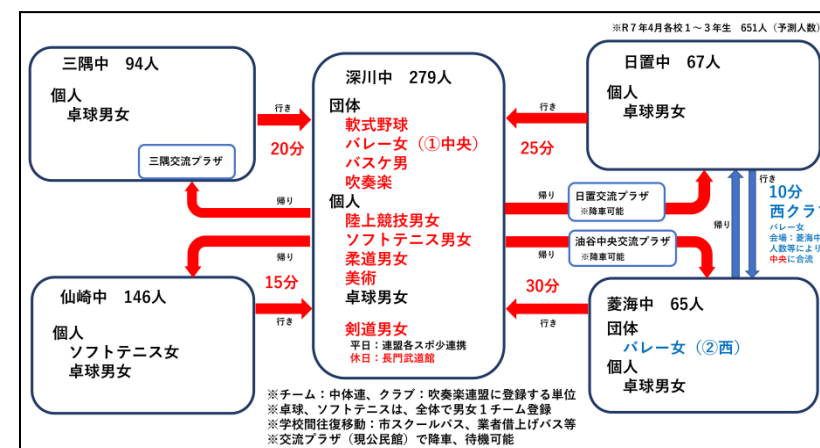
- ・各関係者と効果的な連携を図ることができ、円滑な事業運営を図ることができた。
- ・各競技の現状や団体毎の様子が分かり、Nクラへの移行に向け、現在の部活動とスポーツで密な連携が図れ、今後は一緒に活動していく方針が決まる、競技者向けアンケートの結果から入部見込者数を把握し、チーム数を見直すなど、さらに具体的な体制を整備することができた。
- ・当初予定していた種目数以上の地域クラブ活動の一部試行、体験会を実施できた。
- ・長門市公式LINEアカウントを活用した参加申込みや関係者との連絡体制により保護者や事務の負担軽減を図ることができた。

今後の課題と対応方針

- ・現体制案をもとに、子どもたちに意向調査を実施し、その結果を踏まえながら、本格稼働に間に合うよう必要な取り組みを着実に実施していく。
- ・不測の事態に備え、各関係者と引き続き密な連携を図り、柔軟な対応ができる体制を構築する。
- ・公的支援の対象とする地域クラブの基準がないため、要件等の検討する。



※R5.10時点の体制案



※R7.1時点（最新）の体制案

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・市内の各種目団体等への説明、随時協議を行う。
- ・教職員向けにNクラ参加に関する意向調査を実施する。
- ・クラブ活動前に指導者研修会を開催し、必要なスキルや心得を学ぶとともに、更なるスキルアップのため、外部講師の研修会を1回開催する。
- ・指導者資格等の取得に関する支援を行う。
- ・教職員・市職員等が参加する場合の仕組みづくりを行う。

取組の成果

- ・指導者を46名確保。他種目についても、一定の指導者候補を発掘することができた。
- ・地域移行後も引き続き指導に携わりたい教職員の意向を確認し、希望者と参加に向けた調整を行うことができた。
- ・研修で学んだことを早く現場で活かしたいとの声が多くあった。
- ・市独自の支援策を設け、新規で指導者資格を4種目で計16名が取得。
- ・教職員、市職員等の人事担当部署と、兼職兼業や職専免の取り扱い等について具体的な調整を図ることができた。

指導者研修の内容

【クラブ活動に係る事前研修会】

- ・対象：各種目のクラブ指導者
- ・目的：Nクラの活動目的と活動方針を共通認識し、生徒が主体的かつ安全安心に活動できるよう指導者の心得や危機管理意識の醸成を図る。
- ・工夫：共通理解が図れるようマニュアルを作成した。

【外部講師による指導者等研修会】

- ・対象：スポーツ指導者、小中学校教諭、保護者等
- ・目的：中学生年代の「積極性」を引き出す関わり方を学ぶこと
- ・工夫：保護者等も対象とし、より多くの人に地域移行への関心をもってもらえた。

今後の課題と対応方針

- ・指導者によって、経験値が大きく違うケースがあったため、座学による研修だけでなく、実際の指導にあたるための実技研修等を検討する。
- ・指導者の確保が難しい種目があるため、専門的な知識がある指導者をサポートできる人材を確保する。
- ・上記人材への研修内容を検討する。
- ・競技団体や関係者の数が少なく、高齢化も進んでいる状況を踏まえ、若者が指導者として参画しやすい環境の整備、働きかけを検討する。

種目	指導者数 ※候補のみは△
軟式野球	△
バレー女子	1
バスケ男子	△
卓球男女	15名
陸上競技	11名
ソフトテニ男女	2名
剣道	11名
柔道	6名

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・中学校長会や市PTA連合会等において本市の取組や今後の見通し等を説明する。
- ・既に市内で地域クラブとして活動する団体と意見交換を行う。
- ・市内の各種目団体等への説明、随時協議を行う。
- ・スクールバスや借り上げバス等を運行し、生徒の活動場所までの送迎を行う。

取組の成果

- ・学校の理解と協力を得て、学校を訪問し、児童や生徒、その保護者に本市の取組や今後の見通し等について直接説明することができた。※計12回で約1,000人に説明
- ・他地域クラブとの交流を通して、合同練習の検討など、今後の連携体制を協議することができた。
- ・各種目団体等との繋がりから、審判員等の指導者以外に協力が必要な人材の確保ができた。
- ・スクールバス等を運行し、生徒がNクラ移行後のイメージを持つことができた。また、安全に駐停車できるスペースを確認できたこと、乗車確認は生徒が主体になって行えたことなど、課題と収穫を得ることができた。



バス等の運行実績

- ・日数 8日
- ・利用者数 延べ110人
- ・運行経路
各中学校経由～各会場
※陸上競技は片道のみ

バス等の運行経費

- ・スクールバス運行委託（片道）
12,500円/回 計6回運行
- ・借り上げバス等運行業務（往復）
30,800～49,500円/回
計3回運行



今後の課題と対応方針

- ・地域一体となった取組を進めるため、今後も丁寧な説明、情報発信の強化に努める。
- ・参加者を乗せたバスや指導者の車を駐車するスペースが足りないため、新たな駐車スペースと生徒の乗降スペース確保する。
- ・バス等の運行に係る財政負担が大きいいため、負担軽減のための手法を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

・Nクラの運営に係る全体予算を立て、保護者アンケートの結果等を踏まえながら、部活動改革推進協議会で参加費用負担とその支援について内容を検討する。

取組の成果

・バス等移動の経費が大きく占めるが、生徒の活動機会の確保を最優先に、予算の確保に努める方針が決定。

・学校間の移動経費は保護者負担にしてほしくない、選択する種目によって費用に差が出るのは共通の選択肢の確保ではないなどの意見を採用し、参加費用負担額は全員一律の額とする。

・国と県が策定したガイドラインを参考に、過去の保護者アンケート調査の結果や見直したクラブ活動の内容と照らし合わせるなど、総合的に判断した結果、月額1,000～2,000円の範囲で最終決定に向けた検討を行う。

・経済的に困窮する家庭として「就学援助受給世帯」を対象に減免制度を検討する。

今後の課題と対応方針

・市の財政負担が非常に大きいことから、ふるさと納税制度の活用など、財源確保に向けた取組みを検討していく。

クラブ経費の全体像

・全体予算額	56,000千円/年
《内訳》	
①指導者の謝金	13,000千円
②バス等移動の経費	30,000千円
③各チーム活動費	3,000千円
④その他（事務局費等）	10,000千円

会費収入の概算

・生徒数の約70%が参加すると仮定して年間400人を基準値とする。
@1,000円×400人×12月＝4,800千円
@1,500円×400人×12月＝7,200千円
@2,000円×400人×12月＝9,600千円
@3,000円×400人×12月＝14,400千円

保護者アンケート調査結果

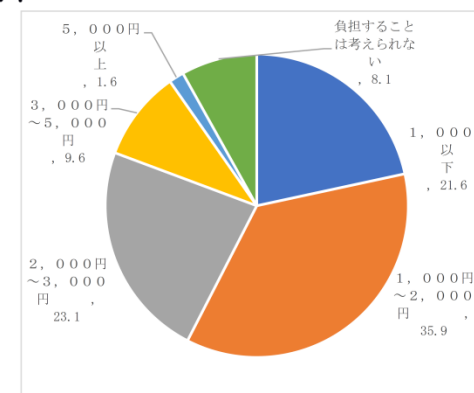
【保護者アンケート調査結果】 ※R5.5月実施

Q. 負担月額はどの程度が適当と考えますか？

・1,000円以下	21.6%
・1,000円～2,000円	35.9%
・2,000円～3,000円	23.1%
・3,000円～5,000円	9.6%
・5,000円以上	1.6%
・負担は考えられない	8.1%

Q. 1週間の適当な活動回数は？

・平日1～2日、土日活動なし	10.5%
・平日1～2日、土日どちらか1日	6.4%
・平日2～3日、土日活動なし	12.3%
・平日2～3日、土日どちらか1日	16.9%
・平日3～4日、土日活動なし	18.8%
・平日3～4日、土日どちらか1日	33.3%
・その他	1.8%



2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年4月から市長部局に準備室を設置（教育委員会部局から移管）し、各関係者への説明や協議を加速させ、その結果をもとに、令和7年8月のNクラ設立に向けた準備を進めた。

一部試行的に実施した地域クラブ活動等を通して、多くの指導者を確保できたとともに、指導体制の構築、連絡手段として長門市公式LINEアカウントの活用やスクールバス等の運行などをテストし、実働に向けた課題を検証することができた。

また、各種目団体等との新たな繋がりから、審判員等の指導者以外に協力が必要な人材の確保でき、他の地域クラブと交流から、現在の部活動との連携などを図ることができ、より具体的な体制案を整備できた。

今後も各関係者との密な連携を図ながら、地域全体で地域移行を進めていく機運を高めていくことが重要である。また、本市では、指導者の確保、そして財源の確保が特に大きな課題であるため、今後は地域の民間企業等を巻き込んだ取り組みを進めていく必要がある。

●成果の評価

一貫指導に関する指導体制やバス等の駐車スペースの確保など、実際に運用して初めて分かる課題を把握することができた。これは、各関係者と具体的な協議を重ね、当初の予定以上の種目数で地域クラブ活動の一部試行を展開できたことが大きな要因となった。

また、円滑な事業運営を図れた理由として、今年度から新たにNクラ通信や市HPの特設ページによる情報発信に努めたこと、関係者へのアンケート結果から効果的な連携を図ったこと、さらに学校の協力で多くの説明機会を設け、それらを材料に各関係者と意見交換できたことが良かった。

令和7年8月の完全移行に向けては、まだ一部試行できていない種目が多く、より多くの成果を得るには、至急取り組みを広げていく必要がある。

●今後に向けて

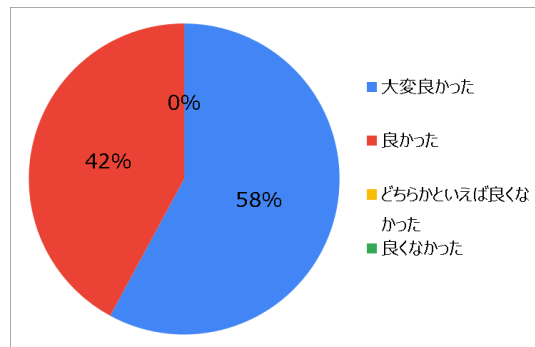
- ・引き続き、各関係者との協議を継続し、指導者を確保しながら、予定する全種目で一部試行的に地域クラブ活動を実施し完全移行に向けた課題の検証を行う。
- ・Nクラ運営に係る財源の確保に努め、早期に参加費用負担額を決定し、希望するすべての生徒が持続的に活動できる体制を検討する。
- ・令和7年8月にすべての部活動をNクラに移行する。
- ・地域の民間企業や近隣の自治体と連携した取り組みを進め、発展した地域クラブ活動の実現を目指す。

2.実証内容と成果②

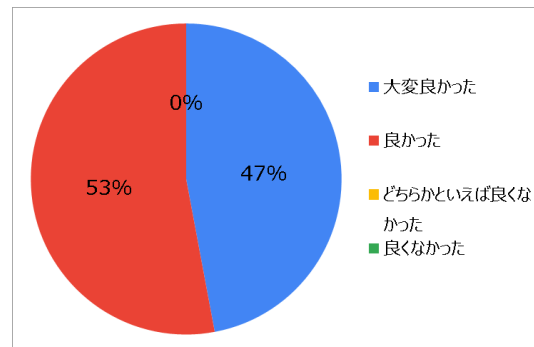
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

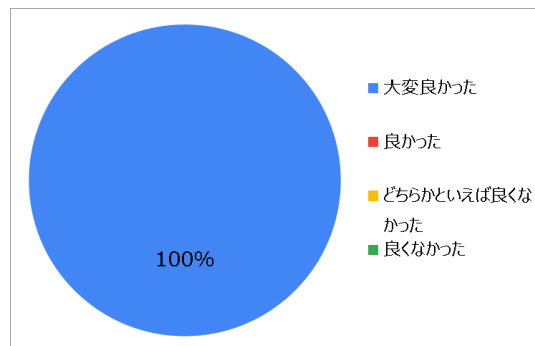
Q.（参加した生徒）参加されたクラブ活動はいかがでしたか？



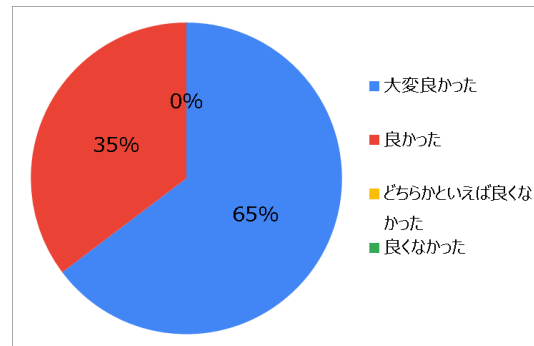
Q.（生徒の保護者）お子様が参加されたクラブ活動はいかがでしたか？



Q.（参加した生徒）バスの利用はいかがでしたか？



Q.（生徒の保護者）LINEを利用した申込み、連絡等はいかがでしたか？



●関係者の声

参加した生徒

- ・他校の生徒と活動できて刺激になった。
- ・バスがあったから参加できた。運転手さんも優しくかった。
- ・今までと違った専門的な指導が受けれた。学んだことを活かして、次の試合でいい記録を出したい！
- ・色々な方がわかりやすく教えてくれて良かった。
- ・もっと取り組む時間がほしい。

生徒の保護者

- ・最後まで楽しそうに安全安心に活動できていた。
- ・バスがないと参加が難しかったので助かった。
- ・LINEだと時間を気にせず連絡でき、雨天時の事前連絡などもスムーズにできて良かった。
- ・コーチの負担が大きいがもう少し時間が長く、活動日数も増やしてほしい。
- ・テスト週間は外してほしい。
- ・誰が主で指導するか早く決まり、完全移行まで活動を継続してほしい。

指導者

- ・これまで指導経験がなかったが、先輩指導者と対話し実際に指導して良さを実感した。
- ・天候による会場の変更など、柔軟な対応もテストできた。
- ・グループ間、各パートで指導にあたる難しさがあった。チームとして目標をしっかりと共有したい。

2.実証内容と成果③

広報資料

2024年10月 **Nクラ通信** No.1

長門市部活動地域移行準備室 (スポーツ文化交流課内)

長門市では、昨年10月「長門市中学校部活動地域移行に係る体制等の案」を策定し、部活動が地域移行した際の受け皿として「市営地域クラブ (NAGATOスポーツ・カルチャークラブ=通称: Nクラ)」の設立 (令和7年8月予定) に向け準備を進めています。

本通信を通じて、Nクラ設立に向けた現在の進捗状況をお伝えしていきます。

活動日・時間を決定しました

活動場所までの移動時間を考慮した各学校の生活時間の調整や一定の活動時間の確保を図りたいことなどを総合的に鑑み、次のとおりNクラの活動日・時間を決定しました。

活動日	活動時間
平日: 火曜日、木曜日	16:15~17:45 ※時期により17:15まで短縮
休日: 土曜日 (長期休暇含む)	9:00~11:30 ※試合等は除く

※注1 テスト週間や学校行事がある日、また学校開庁日は活動しません。
※注2 悪天候等により活動を中止することがあります。

各種目のチーム数を見直します

現在の競技者数で案に提示したチーム編成とした場合、種目によって人数が不足しチーム運営に支障が生じる可能性があるため、各種目関係者等と協議し、チーム数を再検討することとしました。今後参加費や移動体制と合わせ、チーム数を**年内中に決定**したいと考えています。

「一部実証事業」兼海卓球クラブが開始しました

実証事業として、6月に三隅陸上クラブ (主催: 三隅中学運動部) が始動し、この9月からは兼海卓球クラブ活動が始めました。当初は兼海球技会を9月のみとしていましたが、より多くの生徒が参加しやすいよう**無料期間を10月まで延長**することとしました。

引き続き本事業の実施を通して、地域移行に向けた諸課題の検討・検証を進めています。

※兼海卓球クラブ

9/26 (木) に第2回地域文化芸術活動WGが文化庁で開催されました。この会議は、国が部活動改革に関する課題の整理や解決策の検討等を目的に設け、大学教員等や関係団体の代表者等が委員として参加されています。

国からの依頼を受け、北防的な事例として本市の取組内容を発表するとともに、今後の支援要望を行い、現場の声を直接届けることができました。

※会議の詳細はこちら

国に会議で本市の取組を発表

9/26 (木) に第2回地域文化芸術活動WGが文化庁で開催されました。この会議は、国が部活動改革に関する課題の整理や解決策の検討等を目的に設け、大学教員等や関係団体の代表者等が委員として参加されています。

国からの依頼を受け、北防的な事例として本市の取組内容を発表するとともに、今後の支援要望を行い、現場の声を直接届けることができました。

※会議の詳細はこちら

Nクラに関する最新情報はこちら

長門市HP上に特設ページを作成していますので、是非ご覧ください。
※Nクラに関するお問い合わせもこちらから受け付けています。

2024年11月 **Nクラ通信** No.2

長門市部活動地域移行準備室 (スポーツ文化交流課内)

Nクラで実施する「種目・チーム編成」の変更案を提示

各種目関係者等との協議、参加人数予測や指導者等の状況、意向調査などを踏まえて、「案 (R5.10月)」からの「変更案」を提示しました。今後これを基に最終決定を行い、12月に開催予定の協議会で、種目・チーム編成の最終決定を図ります。

令和7年8月、長門市の中学校部活動は**Nクラ**へ変わります! (NAGATOスポーツ・カルチャークラブ)

※参加人数、指導者等の状況により、変更の必要が生じる可能性があります。
※参加人数、指導者等の状況により、変更の必要が生じる可能性があります。
※参加人数、指導者等の状況により、変更の必要が生じる可能性があります。

種目・チーム編成 (R6.10変更案)

三隅中 94人 団体
個人
卓球男女
20分

深川中 279人 団体
個人
卓球男女
25分

仙崎中 146人 団体
個人
卓球男女
30分

兼海中 65人 団体
個人
卓球男女
30分

活動時間: 日・木 (16:15~17:45、長期休暇中) 土 (9:00~11:30)

【軟式野球】 1チーム: 深川中 【バスケ男子】 1チーム: 深川中
【バレー女子】 2チーム ①中央クラブ (三・仙・深): 深川中 ②西クラブ (日・兼): 兼海中
【吹奏楽】 1チーム: 深川中 【卓球男子】 1チーム: 全ての中学校
【ソフトテニス男女】 男子1チーム: 深川中、女子1チーム: 仙崎中
【陸上競技男子】 1チーム: 深川中 【柔道男子】 1チーム: 深川中
【剣道男子】 1チーム: 深川中 (または武道館) ※平日は剣道連盟 (各少少) の練習に参加
【美術】 1チーム: 深川中
※「レククラブ」の設置については検討中

参加者会費、減免制度を検討

Nクラ参加者の会費について、「可能な限り低減会費の設定」、「経済的に困難な家庭への参加費用の支援」として、1人当たりの会費月額「1,000円~2,000円」の範囲で最終調整を行うとともに、**就学援助受給世帯を对象とした減免制度**を検討することとして検討を進めています。

《Topic》試合用ユニフォームの取り扱い

定期活動の試合用ユニフォームについて、Nクラに移行するまでの期間、前1年生が新たに購入しなくてもよいように各部で卒業生のユニフォーム等の寄付または無償貸借に協力いただけますと助かります。ご理解協力の程よろしくお願い申し上げます。

【参考】Nクラ移行後のユニフォームの取り扱い (予定)

※Nクラから発生
・バレーボール、バスケットボール、軟式野球、陸上競技
※軟式野球と陸上競技は個人購入も可
★市内でサイズを揃えて個人購入 (前1年生のみ)
・ソフトテニス、卓球

Nクラに関する最新情報はこちら

長門市HP上に特設ページを作成していますので、是非ご覧ください。
※Nクラに関するお問い合わせもこちらから受け付けています。

2025年1月 **Nクラ通信** No.3

長門市部活動地域移行準備室 (スポーツ文化交流課内)

Nクラで実施する「種目・チーム編成」を決定

12月23日に開催された第10回長門市部活動改革推進協議会において、前回の協議会で提示した「変更案」が採択され「決定案」となりました。

協議会での参加人数、指導者の状況、登録要件等により変更の可能性のある「案」としては、

種目・チーム編成 (R6.12決定案)

三隅中 94人 団体
個人
卓球男女
20分

深川中 279人 団体
個人
卓球男女
25分

仙崎中 146人 団体
個人
卓球男女
30分

兼海中 65人 団体
個人
卓球男女
30分

活動時間: 日・木 (16:15~17:45、長期休暇中) 土 (9:00~11:30)

実証事業を行います

Nクラへのスムーズな移行を図るため、各種目別クラブ体験等の実証事業を行い、指導者や移動体制等を検証します。新たに12月から陸上競技クラブが開始し、年度内は卓球体験会と柔道・剣道クラブ活動の実施を予定しています。

★実証事業の概要★

①陸上競技クラブ
※全て水曜日 17:15~18:30
12/18・1/15・1/22・2/12
2/19・3/5 (計6回)
※小内川ラウンド

②Nクラ卓球体験会
※全て土曜日 13:30~15:00
1/18 ③日直中・兼海中
1/25 ④深川中・三隅中
2/1 ⑤仙崎中・兼海中
2/8 ⑥深川中・兼海中
2/15 ⑦仙崎中・日直中

③Nクラに向けた柔道・剣道クラブ
2/8 (土) 9:00~11:30
※柔道: 深川中
※剣道: 兼海武道館

指導者・保護者向け講演会を開催

「中学生年代の積極性を引き出す関わり方」をテーマに講演会を開催しますので、多くのご参加をお待ちしています。

・開催日時
令和7年2月16日 (日)
10:00~11:30

・会場
中央公民館 大講堂

・講師
スポーツメンタルトレーニング指導士
栗原 啓氏

・参加費無料
・参加申込み不要

「Nクラに関する最新情報はこちら」

長門市HP上に特設ページを作成していますので、是非ご覧ください。
※Nクラに関するお問い合わせもこちらから受け付けています。

《Topic》Nクラ説明会の開催

今月から小学6年生及び中学1・2年生、保護者の方を対象としてNクラ説明会を開催します。

各学校で開催するとともに、全体説明会を2月に2回開催する予定です。

★Nクラ全体説明会★
2/13 (木)・2/28 (金) 19:00~ ④中央公民館 大講堂
※事前申し込み不要

Nクラに関する最新情報はこちら

長門市HP上に特設ページを作成していますので、是非ご覧ください。
※Nクラに関するお問い合わせもこちらから受け付けています。

2025年2月 **Nクラ通信** No.4

長門市部活動地域移行準備室 (スポーツ文化交流課内)

《重要》Nクラ加入に係る種目選択の注意事項

★Nクラ内で選択・所属できる種目は**1人1種目**とします。
※バレーボール女子は、所属校で西と中央のチームに分かれます。
※Nクラ内で種目変更は随時可能ですが、登録の関係上、次の大会等に出場できない場合があります。
★原則、参加者 (スポーツス) は**Nクラで中体連主催大会 (選手権大会、新人大会等) に出場**します。
※他団体で活動しながらNクラに加入する場合、選手登録の規定 (クラブ2重登録の禁止等) や各チーム運営の混乱を防ぐ観点から、**選択・加入できる種目を制限**する場合があります。※下部参照

Nクラ種目選択フローチャート

民間スポーツ団体等 (以下、A) に所属している
YES
Aで協会又は連盟等に選手登録している
例: 卓球協会、軟式野球連盟など
YES

NO
Nクラの全種目から選択可

NO
Aで協会又は連盟等に選手登録している
例: 卓球協会、軟式野球連盟など
YES

②Nクラでも活動を希望する場合は、スポーツ系種目は選択不可
※Aで協会又は連盟等に選手登録している場合は、別途ご相談ください。

③Nクラでも活動を希望する場合は、Aで種目1種目は選択不可
※Aで協会又は連盟等に選手登録している場合は、別途ご相談ください。

例1
中体連登録する民間のソフトテニスクラブで活動する生徒が、Nクラへの加入を希望する場合、登録上の制約のない文化系種目であれば選択可能。※③に該当 (要相談)。

例2
中体連登録しない民間の軟式野球クラブで活動する生徒が、Nクラのスポーツ系種目の加入を希望する場合、中体連登録は重複しませんが、連盟登録が重複するため、軟式野球以外の種目であれば選択可能。※②に該当 (要相談)。

重要
これまでは、種目により、学校部活動と民間クラブの2重登録が可能でしたが、Nクラは民間クラブと同等の扱いとなるため、いずれかのクラブで選手登録ができなくなります。年度途中のクラブ間移籍もできない場合がありますので注意が必要です。

※各学校説明会等でご質問への回答やよくある質問Q&Aを市HPに掲載しています。
下記QRコードからご確認ください。

Nクラに関する最新情報はこちら

長門市HP上に特設ページを作成していますので、是非ご覧ください。
※Nクラに関するお問い合わせもこちらから受け付けています。

※お問い合わせ先
TEL: 0837-22-3526
メール: include@city.nagato.lg.jp

【Nクラ通信を発行し、本市の取り組み等を広くお知らせしています】

広報資料

NAGATO スポーツ・カルチャークラブ
(Nクラ)

概要

(令和7年1月)

長門市
長門市教育委員会

長門市では、近年、少子化により各中学校単位での部活動存続が困難となってきた中、全国的に少子化や学校教員の働き方改革をふまえた「休日の部活動地域移行」の取り組みが令和５年度から始まりました。

市では、この機会をチャンスと捉え、市内共通の種目選択肢を確保し、平日・休日ともにスポーツや文化芸術活動に親しむことができる市営地域クラブ「NAGATOスポーツ・カルチャークラブ（通称Nクラ）」を令和7年8月に設立、運営開始することとして準備を進めています。

長門市の子供たちの健やかな成長のために、スポーツ・文化芸術活動を持続的に親しめる環境を市民の皆さんとともに目指してまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

【令和7年1月にNクラの概要資料を作成し関係者に配布しました】

[illegible]

【令和7年2月市広報に本市の取り組み状況等を掲載しました】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【菱海卓球クラブの様子】



【Nクラに向けた剣道クラブの様子】



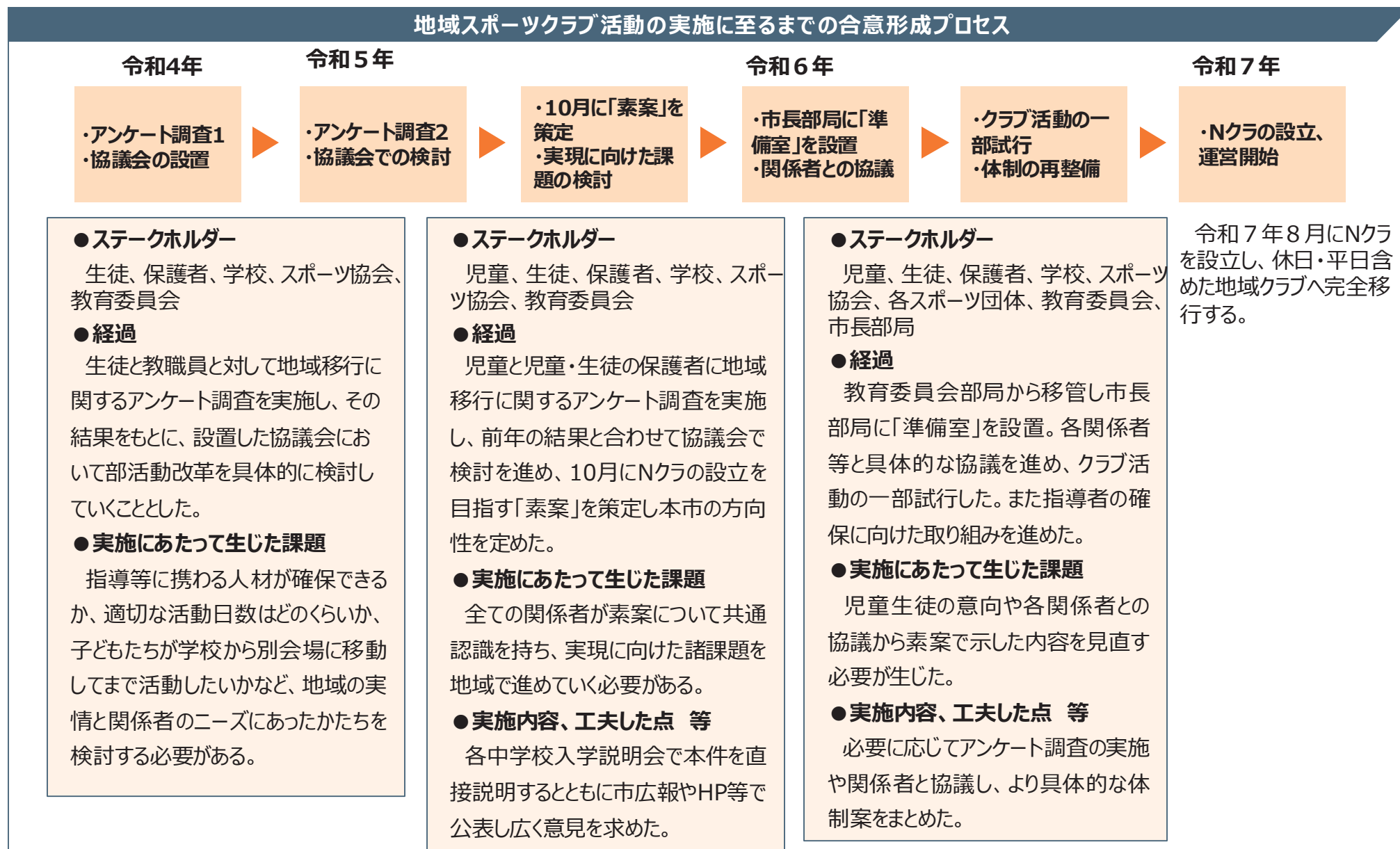
【長門市陸上競技クラブの様子】



【Nクラに向けた柔道クラブの様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和 6 年度			令和 7 年度				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
活動種別	学校部活動（中国大会以上に進出した部活動はその試合まで、吹奏楽部は11月まで継続）							Nクラ 運営開始 活動初回 8/19（火） 9時～
情報発信	各学校説明会	入学説明会		教員説明会	クラブ紹介			
	全市・各地区説明会							
	Nクラ通信の発行、ホームページ更新等							
指導者	実証事業・体験会への参加							
				登録・審査・委嘱				
				研修会受講				
	各種団体等との協議・調整							
R6年度 小学6年生 中学1・2年生	実証事業・体験会への参加							
			意向調査	部活動入部 中体連登録①	入会申込み	中体連登録②		
大会等						選手権予選 （市・広域）	県選手権	吹奏楽コンクール 中国大会 全国大会

※令和7年度中にすべての部活動を市営地域クラブに移行する予定